



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	労働組合員の政治意識 : 東北の場合
Author(s)	阿部, 四郎; Abe, Shiro
Citation	北大法学論集, 36(1-2), 147-211
Issue Date	1985-09-30
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/16475
Type	departmental bulletin paper
File Information	36(1-2)_p147-211.pdf



労働組合員の政治意識

――東北の場合――

阿
部
四
郎

はじめに

一 生活意識

二 職場生活

三 労使関係

四 組合活動

五 党派性と政党観

六 国の政治

七 地域政治

おわりに

はじめに

70年代後半以降、全国レベルでも、また地方レベルでも、労働組合運動の「低迷」や「危機」が叫ばれ、運動が「岐路」に立たされているといわれる。「危機」や「転換点」という言葉は、労働組合運動をめぐる論議に常に登場しがちであったが、現今の議論は三点に概括できるように思われる。⁽¹⁾一つは、直截に「春闘連敗論」から由来し、74年、75年の時期を境いに、賃金闘争が経営側に主導権をとられ、組合側の要求が、「実質賃金の維持」あるいは「賃金より雇用確保」へとダウンを余儀なくされてきた事情と関連する。その二は、労働組合の組織状況と関連する。雇用労働者に対する労働組合の組織率は、70年をピークとして減少の一途をたどり、83年には30%を割っているが、そうした量的な側面だけではなく、労働者内部で労働組合が既得権者の集団になりつつあるという点である。第三は、労働組合運動の目標に関連する。労働組合の「本来の任務」と、それを現代的条件の下でいかに達成するかの戦略をめぐって、「労働組合の政治活動」の再吟味や、「地域運動」の提唱など数多くの議論がある。

労働組合運動の現状及びその行方をめぐる論議を、労働問題の専門家や組合指導者の梓をこえて、より広い文脈で、かつ、それを例えば、英国の場合と比較すると、「日本経済の成功」が「労働組合の弱さ」と関連させられ、「英国経済の衰退」が「労働組合の強さ」と関連させられるといった、一見奇妙な対照がみられ、それらの論議自体興味ある問題であるが、それは別の機会にゆずりたい。

本稿では、一般の労働組合員が今日の状況をどのようになっているか、また、組合員個人にとって労働組合とは何であるか、をとりあえずの検討課題としているが、ここでは、後の行論との関係で、労働組合の組織状況について簡単にふ

れておきたい。一九六三年から八三年までの二〇年間に於ける労働組合の組織状況をふりかえると(表1)、組合数は漸次増加を続けているが、その二〇年間に四つの時期に区分できるように思われる。第一は、六三年から七〇年までの七年間で、組合数、組合員数、組織率いずれも増加した時期である。第二は、七〇年から七五年までの五年間で、組合数、組合員数は増加するが、組織率は横ばいの時期、第三は、七五年から七九年までの四年間で、組合数は増加しているが、組合

表1 労働組合数及び組合員数の推移

	労働組合		組合員		就対人口業 者比	雇対就業者 者比	推定組織率
	組合数	対前年比	員数 (,000)	対前年比			
63	49,796	4.1	9,270	5.5	44.0	62.8	34.4
64	51,457	3.3	9,652	4.1			34.4
65	52,897	2.8	10,070	4.3	45.1	65.1	34.6
66	53,985	2.1	10,308	2.4			33.9
67	55,321	2.5	10,476	1.6			33.8
68	56,535	2.2	10,775	2.9	48.1	64.5	34.1
69	58,812	4.0	11,143	3.4			34.9
70	60,954	3.6	11,481	3.0			35.0
71	62,428	2.4	11,684	1.8	48.4	66.8	34.5
72	63,718	2.1	11,772	0.8			34.1
73	65,448	2.7	11,967	1.7			32.9
74	67,829	3.6	12,325	3.0	47.3	71.6	33.9
75	69,333	2.2	12,473	1.2			34.4
76	70,039	1.0	12,374	△ 0.8			33.7
77	70,625	0.8	12,293	△ 0.7	47.4	69.8	33.2
78	70,868	0.3	12,232	△ 0.5			32.6
79	71,780	1.3	12,174	△ 0.5	47.5	71.2	31.6
80	72,693	1.3	12,241	0.5			30.8
81	73,694	1.4	12,355	0.9			30.8
82	74,091	0.5	12,418	0.5	49.2	70.9	30.5
83	74,486	0.5	12,411	△ 0.1			29.7

資料：労働組合基本調査報告

員数、組織率のいずれも減少した時期、第四は、七九年から八三年までの最近の四年間で、組合数、組合員数は増加したが、組織率は低下した時期である。

組合数、組合員数、組織率の三者の変化の間にズレがみられるが、組合員数の増加と組織率の低下の間のズレは、雇用者の増加が組合員数の増加に反映されなかったためである。組合数の増加と組合員数の低下の間のズレは、「労働組合基本調査報告」の資料でみる限り、組合数の増加が大規模事業所よりも小規模事業所でより多く起ったこと、また、一事業所当りの組織率に低下がみられることによっていると推測される。

雇用者が一貫して増加しているにも拘らず、組織率が七〇年をピークとして低下を続けている点は、統計資料の上からは、産業構成の推移におけるパターンの変化によって説明できよう。過去二〇年間の国勢調査によれば、六〇年から七〇年までの一〇年間には、第一次産業の縮少が、第二次及び第三次産業の増加に連なつたが、七〇年から八〇年までの一〇年間には、第一次産業の縮少がもつばら第三次産業の増加に連なつていたのである。他方、産業別労働組合員推定組織率によると、産業別による組織率の偏りが大きくみられるのである(表2)。つまり、組織率の高かった産業において雇用者が減少し、組織率の低い産業に雇用者が増大し、雇用の増加が、結果的に、組織率の低下をまねいたわけである。

労働組合員の主要団体別構成比をみると、総評及び同盟は、それぞれ七〇年代半ばをピークとして、それ以後わずかに減少しているが、大きな変化はみられず、また、主要団体別の産業別組織率(表3)をみると、そのパターンにはほとんど変化がみられない。

地域的観点から労働組合の組織状況(表4)をみると、時系列的な変化は、必ずしも全国一様ではない。この一〇年間にしてみると、前半の五年間に組合員の比較的大きな伸びをした東北、九州は、後半五年で減少となっており、関

表 2 産業別労働組合員推定組織率

		計	農 林	漁 業	鉱 業	建 設	製 造 業	卸 小 売	金 融 不 動 産	運 輸 通 信	電 気 ガ ス 水 道	サ ー ビ ス	公 務	そ の 他
推 定 組 織 率	'73	33.2	20.0	22.4	48.2	18.5	37.5	9.3	57.2	63.2	61.6	22.6	75.9	—
	'74	34.2	24.7	26.5	52.4	19.4	39.0	9.8	58.0	65.6	66.2	22.9	69.3	—
	'75	34.7	23.8		50.4	18.3	41.1	10.1	59.7	65.3	73.7	23.4	68.6	—
	'76	33.7	23.6		33.3	18.3	39.5	9.6	59.3	63.7	74.1	22.4	79.9	—
	'77	33.2	22.7		39.0	17.2	39.1	9.2	60.5	65.3	83.5	22.5	82.8	—
	'78	32.6	22.0		45.3	16.9	37.6	9.5	63.3	64.4	75.3	22.5	74.2	—
	'79	31.6	21.0		45.5	16.8	36.0	9.6	60.8	61.0	73.1	21.5	73.1	—
	'80	30.8	20.9		47.2	16.5	35.3	9.4	56.1	62.3	80.1	21.5	74.6	—
	'81	30.8	18.9		49.7	17.2	34.9	9.5	54.4	65.5	73.4	21.0	75.8	—
	'82	30.5	19.4		47.5	18.2	35.5	9.7	51.6	61.8	59.3	20.0	73.8	—
	'83	29.7	16.4		41.7	18.6	35.8	9.5	49.5	59.6	64.0	18.8	73.8	—
対 前 年 比	'73	1.8	△3.1	△10.7	△18.9	3.2	0.1	3.5	4.5	0.1	3.7	4.9	5.4	5.4
	'74	3.0	△2.8	6.8	△5.6	3.9	2.5	6.8	5.4	0.6	1.5	3.1	5.7	1.3
	'75	1.0	△6.1		△3.9	2.2	△1.0	3.9	3.0	0.6	1.4	3.7	2.9	2.0
	'76	△0.6	△5.3		△3.3	1.0	△3.1	1.0	△1.3	△0.1	0.6	1.8	0.8	9.5
	'77	△0.6	△1.4		△1.5	△0.6	△2.3	1.6	0.8	△0.9	1.7	1.4	1.3	△2.0
	'78	△0.3	△3.3		△5.6	△0.1	△2.9	3.0	2.0	0.3	0.1	1.6	0.9	△4.1
	'79	△0.6	△5.9		△7.3	1.6	△2.7	2.4	0.9	△0.9	0.2	0.8	1.5	△2.2
	'80	0.5	△5.2		△4.9	4.1	△1.1	3.3	1.9	△0.3	△0.8	1.8	1.0	2.6
	'81	0.8	△3.7		△4.3	4.0	0.3	3.8	0.7	△0.7	1.2	1.2	1.1	1.6
	'82	0.4	△3.7		△4.4	1.3	0.9	2.4	△0.2	△0.2	0.9	0.5	△0.7	△0.3
	'83	△0.0	△3.7		△3.5	3.1	0.3	1.8	△0.0	△2.1	△0.1	△0.2	△0.5	1.4

資料：労働組合基本調査報告

表 3 産業別推定組織率 (主要団体別)

	総 評				同 盟				中 立 労 連				新 産 別				そ の 他			
	'73	'75	'80	'83	'73	'75	'80	'83	'73	'75	'80	'83	'73	'75	'80	'83	'73	'75	'80	'83
計	36.1	36.5	36.9	36.1	18.9	18.1	17.6	17.6	0.6	0.6	0.5	0.5	11.3	10.9	10.9	11.8	36.5	37.4	37.4	38.7
農 業	22.9	21.0	26.6	22.2	19.5	19.5	24.0	14.8	—	—	—	—	8.0	7.4	0.5	0.6	49.7	52.2	48.9	62.5
林 業	78.5	78.6	75.8	73.0	13.3	13.6	14.0	13.3	—	—	—	—	—	—	—	—	8.2	7.8	10.2	14.0
漁 業	0.4	0.3	0.4	0.6	13.2	12.9	14.3	50.4	—	—	—	—	15.1	17.4	20.8	22.8	71.3	69.4	64.4	26.3
鉱 業	54.3	55.4	51.0	51.7	16.0	16.9	17.1	18.7	0.1	0.1	—	—	3.5	2.6	3.2	3.2	26.1	25.0	28.7	26.4
建 設 業	20.8	19.1	16.0	13.1	5.1	4.6	5.0	4.4	—	—	—	0.0	34.6	35.1	38.6	43.0	40.3	42.0	40.9	41.3
製 造 業	17.5	18.1	17.1	16.2	30.5	29.9	29.5	28.7	1.4	1.3	1.3	1.3	16.4	16.0	16.4	17.4	39.0	39.7	41.5	42.5
卸 小 売 業	8.1	7.8	6.3	5.8	22.3	22.5	27.3	30.3	0.0	0.1	0.0	0.1	4.4	4.1	3.7	3.7	73.8	74.0	72.1	68.9
金融保険業	2.8	2.3	1.9	1.8	1.0	1.1	1.3	1.3	—	—	—	—	34.8	32.0	32.6	34.8	62.0	65.2	64.7	62.6
不 動 産 業	24.5	26.5	26.2	26.5	3.5	6.7	9.6	11.0	0.0	0.0	—	—	0.1	0.2	0.3	0.1	93.5	87.4	86.7	85.1
運輸通信業	58.9	59.1	58.0	57.5	22.1	20.9	20.1	20.1	0.4	0.4	0.4	0.5	0.6	0.5	0.0	0.0	23.0	24.1	25.5	25.7
電気ガス水道	25.4	26.1	25.9	25.7	62.6	61.4	61.2	60.8	—	—	—	—	9.7	10.1	10.7	10.5	2.6	2.7	2.5	3.0
サー ビ ス 業	56.9	57.0	60.0	60.4	4.1	4.2	4.3	4.3	0.0	0.0	0.0	0.1	1.3	0.9	0.8	0.9	38.8	39.0	35.5	36.0
公 務	88.4	89.3	89.3	90.3	1.5	1.5	2.7	2.8	—	—	—	0.0	—	—	—	—	10.2	9.3	8.1	7.0
そ の 他	30.2	27.4	26.2	32.3	8.0	8.0	8.8	6.8	0.1	0.1	—	—	—	1.5	4.1	2.7	61.7	63.1	60.9	58.3

表4 労働組合及び組合員の推移(地域別)

	労働組合増減率			組合員増減率			平均増減率	
	73~83	73~78	78~83	73~83	73~78	78~83	73~78	78~83
計	13.8	8.3	5.1	3.7	2.2	1.5	0.4	0.3
北海道	13.0	6.9	5.8	7.5	2.4	5.0	0.4	0.6
東北	10.1	6.4	4.1	3.4	3.8	△ 0.4	0.7	△ 0.1
関東	20.2	11.2	8.1	10.5	4.0	6.2	2.0	1.2
東京	13.7	9.5	3.8	6.2	3.9	2.2	0.8	0.4
中部	9.7	6.0	3.5	2.6	1.3	1.3	0.3	0.3
近畿	16.5	9.1	6.8	△ 1.2	△ 0.7	△ 0.5	△ 0.1	△ 0.1
中国	10.1	7.1	2.7	△ 1.3	1.7	△ 2.0	0.4	△ 0.4
四国	17.1	10.5	5.9	3.2	3.4	△ 0.2	0.7	△ 0.1
九州								
沖縄								
青森	8.3	3.0	5.2	4.9	7.5	△ 2.4	1.5	△ 0.4
岩手	7.7	4.7	2.9	5.0	4.8	0.2	0.9	0.0
宮城	19.1	12.3	6.0	8.6	7.8	0.7	1.6	0.1
秋田	△ 1.1	△ 0.2	△ 0.9	△ 6.0	△ 1.5	△ 4.6	△ 0.1	△ 0.9
山形	13.0	10.2	2.8	5.3	2.6	2.6	0.6	0.5
福島	12.6	4.0	8.2	1.6	1.6	△ 0.1	0.3	0.0

表 5 地域別偏り (対全国平均比)

		雇 用 者 対人口比	推 定 率 組 織 率	産 業 別 構 成 比						主要団体別構成比	
				建 設 業	製 造 業	卸小売業	運輸通信業	サービス業	公 務	総 評	同 盟
北 海 道	'73	.95	.90	.71	.37	1.28	1.39	1.50	1.18	1.51	.47
	'78	.96	.91	.77	.35	1.17	1.35	1.49	1.22	1.47	.51
	'83	.97	.94	1.57	.29	1.13	1.26	1.38	1.21	1.46	.52
東 北	'73	1.01	.74	1.33	.55	1.00	1.13	1.35	1.38	1.32	.73
	'78	1.03	.77	1.30	.59	1.03	1.09	1.22	1.38	1.29	.79
	'83	1.02	.77	1.21	.60	1.04	1.08	1.19	1.41	1.27	.81
関 東	'73	.96	.85	.67	1.37	.55	.74	.90	.91	.83	.97
	'78	.97	.82	.74	1.36	.60	.78	.95	.92	.88	1.00
	'83	.98	.81	.78	1.36	.67	.77	.96	.91	.90	.98
東 京	'73	.99	1.62	1.28	.75	1.55	1.29	.84	.74	.80	.92
	'78	1.01	1.73	1.24	.75	1.57	1.28	.82	.76	.78	.97
	'83	1.05	1.72	1.34	.76	1.52	1.25	.79	.72	.76	.94
中 部	'73	1.07	.94	.68	1.21	.82	.89	.89	1.00	.93	1.13
	'78	1.07	.95	.69	1.23	.83	.90	.90	.94	.93	1.08
	'83	1.05	.97	.61	1.26	.83	.90	.90	.98	.92	1.10
近 畿	'73	.96	1.12	.88	1.14	1.15	.91	.90	.83	1.02	1.18
	'78	.96	1.10	.81	1.13	1.07	.92	.95	.87	1.02	1.11
	'83	.96	1.09	.74	1.11	1.04	.96	.99	.88	1.05	1.11
中国四国	'73	1.04	.88	1.19	1.01	.68	.94	.98	1.18	1.00	1.16
	'78	1.04	.91	1.27	1.03	.70	.92	1.03	1.13	1.04	1.14
	'83	1.01	.91	1.26	.98	.67	.93	1.07	1.15	1.03	1.12
九州沖縄	'73	.95	.87	1.55	.68	.90	1.02	1.33	1.40	1.24	.79
	'78	.94	.83	1.50	.70	.94	1.01	1.24	1.33	1.21	.86
	'83	.93	.83	1.27	.69	1.03	1.02	1.23	1.37	1.20	.87

表 6 産業別・主要団体別推移—東北地方

		建設業		製造業		卸小売業		運輸通信		サービス		公務		総 評		同 盟	
		組合	員数	組合	員数	組合	員数	組合	員数	組合	員数	組合	員数	組合	員数	組合	員数
全 国	'73~'83	15.2	18.8	1.7	△ 9.3	57.1	35.3	11.9	△ 3.5	20.9	18.2	6.2	15.4	11.7	3.7	19.0	△ 3.5
	'78~'83	6.0	11.5	△ 1.8	△ 2.5	21.8	16.7	5.2	△ 3.8	7.6	5.8	2.7	2.7	5.8	△ 0.5	9.5	0.9
東 北	'73~'83	3.6	8.6	2.4	△ 0.9	43.0	41.3	10.9	△ 7.6	8.6	4.5	5.1	18.1	8.3	△ 0.1	21.0	7.7
	'78~'83	△ 1.5	2.7	△ 4.5	△ 2.0	24.7	16.2	6.6	△ 5.9	5.9	1.5	△ 1.1	3.1	6.2	△ 3.1	5.6	2.3
青 森	'73~'83	15.0	8.9	△ 3.4	△ 20.0	32.7	32.9	15.8	△ 3.6	△ 9.5	△ 3.6	16.9	40.2	△ 4.6	3.1	8.1	27.4
	'78~'83	15.0	△ 2.5	△ 8.0	△ 13.1	7.8	5.9	4.1	△ 4.8	12.5	0.6	0.0	3.4	8.4	△ 3.5	△ 7.0	△ 3.4
岩 手	'73~'83	16.4	32.2	10.4	4.0	16.5	42.4	2.2	△ 10.4	7.1	3.7	△ 8.2	7.6	6.9	△ 0.8	4.8	4.2
	'78~'83	△ 1.4	0.4	△ 3.2	△ 1.1	26.2	20.8	3.5	△ 6.6	1.4	1.3	1.8	2.3	5.7	△ 1.3	△ 3.5	0.2
宮 城	'73~'83	20.0	24.5	10.2	3.8	49.1	32.7	26.4	0.9	11.2	△ 1.6	17.4	21.1	10.6	△ 0.8	47.2	24.9
	'78~'83	△ 4.5	7.7	△ 4.2	△ 4.1	20.6	19.2	17.3	△ 1.6	0.4	△ 1.6	2.9	3.9	6.9	△ 1.8	11.6	9.6
秋 田	'73~'83	3.7	1.8	0.0	8.0	29.6	34.8	7.7	△ 12.3	△ 14.0	7.2	△ 4.7	14.5	6.2	△ 0.7	5.2	△ 12.5
	'78~'83	0.0	1.5	△ 6.0	3.5	7.7	△ 5.9	3.0	△ 10.1	2.2	△ 0.9	△ 6.4	5.1	1.8	△ 4.9	△ 2.8	3.7
山 形	'73~'83	△ 11.3	4.1	△ 0.5	8.3	47.0	80.5	△ 2.4	△ 13.5	45.5	11.7	8.3	1.4	19.0	△ 1.0	11.7	23.7
	'78~'83	0.0	4.7	△ 3.0	3.3	11.5	37.4	△ 4.2	△ 8.0	16.8	5.3	△ 10.8	△ 2.2	9.6	△ 1.7	2.3	10.8
福 島	'73~'83	△ 6.4	△ 17.3	△ 1.1	△ 8.4	62.2	50.6	13.7	△ 11.4	14.0	8.4	8.1	25.7	9.5	0.4	31.8	△ 4.3
	'78~'83	△ 5.4	△ 6.3	△ 4.5	△ 3.8	54.9	12.9	12.6	△ 7.2	4.5	3.7	7.3	4.0	5.0	△ 5.2	21.0	△ 3.5

東、北海道は、全国平均の傾向とは逆に、前半より後半でより大きな伸びをしており、近畿は一貫して減少しているのである。

表5は、対全国平均比をとって地域別の偏りをみたものであるが、この表から、第一に、組合組織率は、東京及び近畿地域に最も高く、東北及び九州地域に最も低いこと、第二に、労働組合員の産業構成では、建設、運輸通信、サービス、公務の比重が大きい東北、北海道、九州、中国、四国、製造業の比重が大きい関東と中部、建設、卸小売、運輸通信の比重が大きく、公務の比重が小さい東京、製造業と卸小売の比重が大きい近畿の四タイプに分れること、第三に、公務の比重が大きい地域に、総評加盟率が高いが、同盟加盟率には地域的な偏りがあることの諸点が読みとれる。

同様、地域をさらに細かく県単位でみた場合(表6)にも、労働組合の組織状況における変化は、各地域の産業構成や歴史的條件を反映して地域別に異なっており、その点で、労働組合運動の各ローカル・センターは、各々、各地域に固有の課題をも負っている。

本稿では、宮城県労働組合評議会及び岩手県労働組合総連合に加盟の労働組合員を対象に実施された調査結果を資料に、労働組合員の政治意識について若干の考察を加えたい。ただ、その場合、労働組合員と非組合員の間の意識差、及び全国的傾向と地方の労働組合員との間の意識差についても、可能なかぎり比較を試みたかったが、資料の面で制約があり、前者に関しては、「東北大学・政治行政研究会」が各回総選挙に際して仙台市及び福島市の有権者を対象に実施している調査から⁽³⁾、また、後者に関しては、「労働調査協議会」が七八年及び八二年に実施した全国調査から⁽⁴⁾、データを引用した。

(1) 月刊労働問題一九八〇年一月号以降の「八〇年代労働運動論への試み」と題する特集及び経済評論別冊一九八三年二月号「労働組合問題の特集」を参照。

- (2) それらの調査結果は、「'83組合員意識調査報告書」宮城県労働組合評議会一九八三年八月、及び「一九八三年・労働組合員意識実態調査報告書」岩手県労働組合総連合一九八四年七月、の形で公刊されているが、標本規模について表示をしておくと、次の通りである。

	岩 手			宮 城		
	民 間	官 公 労	計	民 間	官 公 労	計
標 本 数	7,276	6,644	13,920	10,423	2,250	12,673
回 収 率	5,152 70.8	5,245 78.9	10,397 74.7	6,260 60.1	1,847 82.1	8,107 64.0
調 査 実 施 期	'83年10月～11月			'82年12月～'83年1月		

- (3) 調査に関する詳しい内容については、「投票調査の諸問題」法学第四五巻第三号を参照されたい。ここでは、データの引用上、回収標本数について表示をしておく。

			'76		'79		'80		'83	
			仙 台	福 島	仙 台	福 島	仙 台	福 島	仙 台	福 島
労働組合員	20・30代	男女	54 32	61 26	75 40	52 24	72 30	60 29	92 39	28 14
	40代以上	男女	26 19	36 20	50 13	40 18	46 12	30 13	51 23	43 17
非組合員	20・30代	男女	146 198	89 149	143 294	101 138	134 274	80 159	205 226	60 92
	40代以上	男女	132 227	115 162	153 228	128 170	160 238	105 131	200 296	110 151
計			834	658	996	671	966	613	1,132	515

一 生活意識

70年代の各種世論調査にみる一つの特徴は、〈現在の生活に対する満足・不満意識〉における「満足」及び〈階層意識〉における「中」の高率にあったが、80年代に入ってそれらの比率には減少する傾向がみられる。一般有権者の場合にはなお「満足」が「不満」を上回っているが、労働組合員の場合には「不満」の率が高く（表1-1、表1-2）、また、〈階層意識〉における「中」意識も相対的に低い（表1-3、表1-4）。しかし、労働組合員と非組合員との間の差異は、〈満足・不満意識〉でより大きく、〈階層意識〉ではより少ない。もっとも、労働組合員内部でも、「満足」及び「中」の比率は、男性より女性に、官公労より民間に高いといった性別差、官民差がみられるが、この場合は、官民差より性別差の方が大きい。また、これらの意識における官民差は、男女によって異なっており、後にみるように、客観的条件——その一つは、例えば所得だが——における官民格差の単純な反映とはいえない。

現在の生活に対する満足・不満の内容を、〈満足点・不満点〉（表1-5、1-6）としてみると、「友人つき合い」「家庭生活」はより「満足点」として、「職場・職業」「物質面」「保健・衛生・環境」はより「不満点」としてあげられる比率が相対的に高く、その点に性別差、官民差はない。しかし、〈不満点〉に関して、民間の場合は、男女とも「職場・職業」を最も多くあげ、官公労の場合は性別で異なり、男性では「物質面」が最も多くあげられ、女性では「余暇」が相対的に多くあげられる。満足点・不満点の内容は、「満足・不満」の意識と対応をもっており、概略的にいえば、満足点では「家庭生活」が「満足度」と比例しており、不満点では「物質面」「職場・職業」が「不満度」と比例

表1-1 満 足 ・ 不 満

			(男 性)								(女 性)							
			労 働 組 合 員				非 組 合 員				労 働 組 合 員				非 組 合 員			
			充 分 満 足	ほ ぼ 満 足	やや 不 満	大 不 い に 満	充 分 満 足	ほ ぼ 満 足	やや 不 満	大 不 い に 満	充 分 満 足	ほ ぼ 満 足	やや 不 満	大 不 い に 満	充 分 満 足	ほ ぼ 満 足	やや 不 満	大 不 い に 満
20 ～ 30 代	仙 台	'76	0	33.3	48.1	18.5	3.4	50.7	32.2	13.7	3.1	34.4	46.9	15.6	5.6	55.1	30.3	8.6
		'79	0	33.3	46.7	20.0	4.2	46.2	42.0	7.7	0	60.0	27.5	12.5	5.7	58.2	29.3	6.7
		'80	6.9	38.9	47.2	6.9	3.7	44.0	40.3	11.2	0	53.3	43.3	3.3	8.0	56.0	28.4	7.3
		'83	3.3	35.9	44.6	16.3	1.5	47.8	41.0	8.8	2.6	38.5	38.5	20.5	2.7	46.9	38.5	10.6
	福 島	'76	0	29.5	52.5	18.0	4.5	29.2	46.1	19.1	11.5	50.0	30.8	3.8	8.1	55.7	28.2	8.1
		'79	1.9	34.6	36.5	25.0	5.9	40.6	37.6	13.9	4.2	41.7	37.5	16.7	9.4	58.7	26.1	5.1
		'80	0	45.0	40.0	13.3	3.8	45.0	40.0	11.2	6.9	55.2	24.1	13.8	4.4	56.0	32.1	6.9
		'83	3.6	46.4	35.7	10.7	5.0	43.3	40.0	11.7	0	50.0	50.0	0	3.3	46.7	39.1	9.8
40 代 以 上	仙 台	'76	7.7	34.6	30.8	26.9	7.6	48.5	32.6	11.4	5.3	47.4	31.6	15.8	13.7	55.1	22.9	7.5
		'79	2.0	38.0	46.0	14.0	9.2	54.2	31.4	5.2	7.7	53.8	7.7	30.8	7.9	60.5	23.2	7.9
		'80	2.2	50.0	30.4	15.2	7.5	56.9	29.4	5.0	8.3	41.7	25.0	25.0	13.0	56.7	25.6	4.6
		'83	0	37.3	49.0	11.8	6.0	46.5	40.0	6.5	0	34.8	26.1	30.4	4.7	49.7	32.1	13.5
	福 島	'76	0	41.7	41.7	13.9	7.8	43.5	40.0	8.7	5.0	35.0	40.0	20.0	14.8	54.3	24.1	6.8
		'79	0	35.0	42.5	17.5	2.3	58.6	28.1	10.2	5.6	33.3	38.9	22.2	14.1	52.9	24.7	8.2
		'80	2.8	44.4	33.3	16.7	7.6	61.0	21.0	9.5	15.4	53.8	23.1	0	16.8	57.3	19.8	6.1
		'83	0	39.5	44.2	16.3	7.3	47.3	29.1	15.5	0	52.9	23.5	23.5	11.9	54.3	25.2	7.3

表1—2 満 足 不 満

			充分満足	ほぼ満足	やや不満	大いに不満	無回答
岩手	民間	男	2.0	21.2	43.7	32.4	0.8
		女	2.4	32.4	40.4	23.6	1.2
		計	2.1	23.6	42.9	30.3	1.1
	官公労	男	0.9	18.4	42.7	37.3	0.8
		女	1.7	31.6	43.7	21.8	1.3
		計	1.1	21.7	42.8	33.2	1.2
宮城	民間	男	2.3	21.3	45.7	30.2	0.5
		女	2.9	33.9	40.1	21.8	1.3
		計	2.5	24.4	44.3	28.2	0.7
	官公労	男	1.5	15.4	41.9	40.6	0.7
		女	1.8	36.5	44.3	16.4	0.9
		計	1.5	17.9	42.2	37.7	0.7

する傾向がみられる。

《今後の生活願望》では(表1—7)、「仕事・所得の安定」に最も集中し、次いで「老後の安定」や「公害・事故・疾病のない安心できる生活」が相対的に多くあげられる。この質問に対する回答は、選択肢の性格上、大略ではライフステイジを反映するが、他方では官民差もみられる。

《将来の生活に対する不安》(表1—8)も一面ではライフステイジを反映するが、他面では、「これからの世の中がどうなるかわからない」と「職業の先きゆきが心配」の二つの回答が各年齢層を通じてかなりの割合を占める。そして、それら二つの回答項目の割合には性別差及び官民差が大きくみられる。性別でみると、官民の別なく、「職業の先きゆき」不安は男性に、「世の中」不安は女性に多くみられ、官民別でみると、男女の別なく、「職業の先きゆき」不安は民間に、「世の中」不安は官公労に多くみられる。

労働組合員の「不満」や「不安」は、かなりの程度、「職業」生活を中心にしているが、《将来の不安に対する対応》(表1—9)では、「自分で努力」「家族で協力」「公的手当の

表1-3 階層意識

			(男 性)								(女 性)							
			労働組合員				非組合員				労働組合員				非組合員			
			上	中	下	NA	上	中	下	NA	上	中	下	NA	上	中	下	NA
20 ～ 30 代	仙 台	'76	0	76.0	24.0	0	1.4	80.1	18.5	0	3.1	78.2	15.6	3.1	0	85.9	13.6	0.5
		'79	2.7	60.0	37.3	0	1.4	77.7	18.9	2.0	0	87.5	14.8	0.7	0.3	84.2	14.8	0.7
		'80	0	70.8	29.2	0	1.5	72.4	24.6	1.5	0	76.6	23.4	0	0.4	81.8	16.4	1.4
		'83	0	69.5	29.3	1.2	2.9	68.2	26.8	2.1	2.6	64.0	28.3	5.1	1.3	80.6	15.6	2.5
	福 島	'76	0	77.0	19.6	3.4	2.2	67.4	26.9	3.5	0	88.4	11.6	0	0	76.5	17.5	6.0
		'79	1.9	59.6	34.6	3.9	0	71.3	26.8	1.9	0	87.6	8.2	4.2	2.2	80.4	16.6	0.8
		'80	0	71.6	26.7	1.7	2.5	71.3	22.6	3.6	0	82.7	10.2	7.1	0.6	79.9	15.1	4.4
		'83	0	85.7	14.3	0	1.7	71.7	26.6	0	0	92.8	7.2	0	0	85.9	12.0	1.1
40 代 以 上	仙 台	'76	0	84.6	15.3	0	1.5	75.7	20.4	2.4	5.3	79.0	15.7	0	1.3	80.6	16.7	1.4
		'79	0	62.0	38.0	0	2.6	67.3	27.4	2.7	0	53.9	38.5	7.6	0	76.7	19.2	4.1
		'80	2.2	69.5	28.3	0	0	74.4	24.3	1.3	0	66.7	25.0	8.3	0.4	74.8	23.1	1.7
		'83	2.0	74.5	21.5	2.0	1.0	71.0	27.5	0.5	0	52.1	39.1	8.8	0.3	74.7	22.3	2.7
	福 島	'76	0	63.9	33.4	2.7	2.6	60.0	33.9	3.5	0	70.2	20.0	9.8	1.2	70.9	21.6	6.3
		'79	0	57.5	40.0	2.5	0	72.6	25.8	1.6	0	72.2	27.8	0	1.2	70.1	20.0	8.7
		'80	0	83.3	16.7	0	1.0	71.4	23.8	3.8	7.7	46.2	38.5	7.6	0.8	74.8	16.0	8.4
		'83	0	69.7	30.3	0	0.9	73.6	21.0	4.5	0	47.0	53.0	0	1.3	67.5	27.2	4.0

表1-4 階層意識

			上	中 の 上	中 の 中	中 の 下	下 の 上	下 の 中	下 の 下	無 回 答
岩 手 宮 城	民間	男	1.0	3.4	18.8	27.8	17.6	18.8	11.5	1.3
		女	0.5	2.2	29.1	27.9	11.6	15.8	10.2	2.7
		計	0.9	3.2	21.0	27.7	16.2	18.0	11.2	1.9
	官公労	男	0.3	2.3	16.7	28.9	22.5	20.2	8.5	0.5
		女	0.4	3.6	30.1	33.0	17.8	10.0	3.5	1.5
		計	0.3	2.6	20.2	29.9	21.3	17.5	7.2	1.0
岩 手 宮 城	民間	男	1.1	3.8	23.3	29.4	16.4	15.1	9.9	1.1
		女	0.7	4.1	29.8	22.8	10.0	13.8	14.2	4.5
		計	1.0	3.8	24.9	27.8	14.8	14.8	11.0	1.9
	官公労	男	0.6	1.8	16.4	29.4	22.9	18.0	10.5	0.4
		女	0.0	5.9	28.3	28.8	21.0	11.4	1.8	2.7
		計	0.5	2.3	17.8	29.3	22.7	17.2	9.5	0.7

表1-5 現在の生活の満足点

			余 暇	友人 つきあい	教 育	住 宅	職 業・ 職場	家 庭 生 活	保 健・ 衛生 環境	物 質 面	無 回 答
岩 手 宮 城	民間	男	11.7	23.4	2.1	10.8	6.5	26.0	2.2	2.2	15.1
		女	7.2	23.6	1.5	10.1	7.1	26.2	4.2	1.7	18.5
		計	10.6	23.4	1.9	10.6	6.7	25.9	2.6	2.1	16.1
	官公労	男	13.2	22.6	1.7	11.5	8.0	24.4	3.4	2.5	12.6
		女	6.9	17.2	1.4	12.7	9.1	27.4	4.0	4.8	16.5
		計	11.5	21.2	1.6	11.8	8.3	25.1	3.5	3.1	13.8
岩 手 宮 城	民間	男	12.1	24.1	2.1	9.7	6.0	24.7	2.5	2.3	16.5
		女	7.7	21.7	1.5	9.6	8.2	23.9	3.7	2.7	21.0
		計	11.1	23.5	1.9	9.7	6.5	24.5	2.8	2.4	17.6
	官公労	男	17.8	28.2	1.6	8.0	7.1	18.9	2.8	2.5	13.2
		女	5.0	20.1	0.9	11.9	6.4	32.9	3.2	4.6	15.1
		計	16.3	27.2	1.5	8.5	7.0	20.6	2.9	2.7	13.4

表 1-6 現在の生活の不満点

			余 暇	友人 つきあい	教 育	住 宅	職 業・ 職 場	家 庭 生 活	保 健・ 衛 生 境	物 質 面	無 回 答
岩 手	民 間	男	9.7	1.7	2.8	8.7	32.2	5.0	9.8	24.1	6.0
		女	10.8	4.4	2.9	8.1	28.4	9.3	5.8	22.2	8.1
		計	9.9	2.3	2.8	8.6	31.2	5.9	8.9	23.5	6.8
	官公労	男	11.5	1.9	4.0	10.6	23.8	4.5	7.0	33.2	3.7
		女	21.0	3.5	5.3	8.8	23.4	5.9	6.1	18.6	7.4
		計	13.9	2.3	4.3	10.1	23.7	4.8	6.7	29.3	4.9
宮 城	民 間	男	11.4	2.0	3.5	12.9	27.2	5.4	9.4	21.7	6.4
		女	11.2	3.7	3.9	8.9	20.6	11.1	7.7	19.8	13.0
		計	11.4	2.4	3.6	11.9	25.6	6.8	9.0	21.2	8.0
	官公労	男	8.2	2.0	2.8	14.0	21.2	5.4	7.2	35.4	3.8
		女	21.9	5.0	4.6	12.3	21.5	3.7	8.7	14.6	7.8
		計	9.9	2.3	3.0	13.8	21.2	5.1	7.4	33.0	4.2

表 1-7 今後の生活願望

			物便 に恵 まれ 利	公病 害・ 事・ 故・ い	趣高 味・ め 教養 を る	交遊 関 係 豊 か	老後 の 安 定	家族 そ ろ う て す	仕安 事・ 所得 の 定	無 回 答
岩 手	民 間	男	4.4	11.6	7.9	3.7	16.3	12.2	43.3	0.7
		女	3.6	18.0	6.9	5.0	18.2	12.3	35.0	1.0
		計	4.2	13.0	7.7	3.9	16.7	12.2	41.2	1.0
	官公労	男	7.1	14.9	15.9	4.7	15.1	11.2	30.7	0.4
		女	2.4	21.7	15.3	4.2	20.0	11.7	23.4	1.4
		計	5.9	16.7	15.6	4.5	16.4	11.3	28.7	1.0
宮 城	民 間	男	6.1	13.5	10.3	3.8	16.7	10.9	38.2	0.6
		女	6.1	15.6	8.9	4.1	21.0	12.8	29.7	1.8
		計	6.1	14.0	10.0	3.8	17.8	11.3	36.2	0.9
	官公労	男	9.2	15.5	12.4	5.8	15.4	12.3	29.0	0.4
		女	2.7	31.1	15.1	6.4	21.0	5.0	17.8	0.9
		計	8.5	17.3	12.7	5.9	16.1	11.4	27.7	0.4

表1—8 将来の不安

			生 活	健 康	職 業	親 く れ る 人 な つ て し	こ 世 れ か の ら の 中	子 将 供 の 教 育 来	結 家 庭 の 生 婚 活	老 趣 後 の 仕 事 味	無 回 答
岩 手	民 間	男	13.7	6.8	35.9	0.8	25.6	6.9	2.8	6.0	1.4
		女	10.1	8.7	20.2	1.2	29.9	11.1	8.3	8.4	2.1
		計	12.9	7.3	32.3	0.9	26.5	7.8	4.0	6.6	1.8
	官公労	男	16.1	9.6	17.2	0.6	33.6	12.2	3.6	5.8	1.3
		女	4.5	14.5	13.9	1.0	36.2	13.5	6.8	6.5	3.1
		計	13.1	10.8	16.3	0.7	34.2	12.5	4.4	5.9	2.1
宮 城	民 間	男	12.7	7.1	29.6	0.5	31.8	7.1	3.2	6.4	1.5
		女	9.0	8.9	15.9	1.1	37.8	9.8	7.9	6.2	3.3
		計	11.8	7.5	26.3	0.7	33.3	7.8	4.3	6.4	1.9
	官公労	男	17.4	7.1	17.8	0.6	38.8	6.8	4.9	5.2	1.4
		女	6.8	10.0	8.2	0.9	54.3	7.8	5.5	2.7	3.7
		計	16.2	7.5	16.6	0.7	40.7	6.9	5.0	4.9	1.7

表1—9 将来の不安への対応

			自 分 で 努 力	家 族 が 協 力	友 人 の つ な が り	仕 せ い 事 を 出 に す	近 つ き 隣 の い	組 合 活 動	新 た な 技 能	公 手 当 的 の 完 な 備	無 回 答
岩 手	民 間	男	23.0	21.5	10.4	5.2	2.7	6.2	10.4	18.8	1.7
		女	19.3	32.7	13.0	2.6	4.0	4.6	6.3	14.0	3.6
		計	22.0	24.0	11.0	4.6	3.0	5.9	9.4	17.6	2.4
	官公労	男	23.5	16.5	13.6	2.8	1.9	10.5	5.3	23.7	2.1
		女	22.2	25.5	15.9	3.3	3.4	4.2	3.1	17.1	5.4
		計	23.1	18.8	14.2	2.9	2.3	8.8	4.7	21.9	3.2
宮 城	民 間	男	27.8	19.9	10.9	4.8	2.7	5.3	9.6	17.3	1.7
		女	21.0	34.0	11.9	4.9	3.7	3.3	5.6	11.1	1.4
		計	26.1	23.3	11.1	4.9	2.9	4.9	8.6	15.8	2.4
	官公労	男	25.1	15.3	11.7	1.8	2.6	11.6	5.6	23.9	2.3
		女	21.0	18.7	17.4	2.7	2.8	1.8	3.2	26.5	6.8
		計	24.6	15.7	12.4	2.0	2.5	10.5	5.3	24.2	2.8

完備を求める」のいずれかが多くを占め、「組合活動を積極的に」の比率は極めて低く、最も割合の高い官公労の男性でも一割程度にすぎない。また、「不安への対応策」はある程度不安の内容と対応するが、むしろ、性別差や官民差の方が大きいのである。

今日の生活意識にみられる特徴は、部分的には収入と「満足・不満意識」や「階層意識」との間、あるいは「住宅状況」と「満足・不満意識」との間にいく分相関はあるにせよ、全般的には、職場規模、業種、職種といった社会的属性との間の相関が低く、むしろ、年齢といったライフステージの要因が強く働いている点である。このことは、生活様式や生活価値感が、一般に喧伝される「多様化」とは別に、各人の社会的条件如何に拘らず一様化し、いわば各人が生涯を見通した単一の人生モデルをその生活意識の引照基準とする傾向が強まっていることを示しているように思われる。他方、「生活の満足・不満点」「今後の生活目標」「将来の生活の不安」のいずれにおいても、かなりの部分にとって「職業、所得の安定」が判断基準の中心をなしているが、組合員個人にとって、「労働組合活動」は生活意識の上では比重低下してきている現状にあるように思われる。

二 職場生活

「転職経験」や「転勤経験」の実態を回答のうえからみると、「転職」は、民間の場合、男性で約六割前後、女性で五割前後、官公労の場合でも約三分の一が経験している（表2-1）。しかし、それらの比率には地域差がみられ、民間の場合、男女共通して、転職経験率は宮城より岩手に高い。内訳では、宮城については、男性の場合は同業種間より他業種間の方が、女性の場合は逆に同一業種間の転職が多いが、岩手については、民間の女性を除いて、他業種間より同

業種間の方が多くなっている。回数の上では、官公労については、宮城、岩手共通に、また男女を問わず、「一回」が「二回以上」の比率を上回るが、民間については、宮城の女性を除いて、いずれも「二回以上」の比率が「一回」の比率を上回っている。

他方、〈転勤経験〉は民間より官公労にその割合が多く、官公労の場合、男性で五割以上、女性で四割以上となり、民間の男性の場合は、三割以上が経験している（表2—2）。転勤の場合は、女性については地域差はないが、男性については、官民を問わず、岩手より宮城にその比率が高い。転勤の形態については、性別及び官民の別なく、「家族同伴」より「単身赴任」の方が多い。「住居変更を伴う転勤」について回数をみると、宮城の民間女性を除いて、いずれについても、「一回」より「二回以上」の比率が上回っている。

上にみた職場間、職種間の高い移動率は、労働組合の組織化や活動にとって一つの大きな問題をなしていると思われるが、労働者自身は、自己の経験をどのように評価しているであろうか。〈転勤・配置換えに対する自己評価〉（表2—3）をプラス評価とマイナス評価に大略すると、地域別及び男女別を問わず、官公労の場合は「経験者」の七割以上、民間の場合は六割以上が消極的に評価している。評価の具体的内容についてみると、積極評価では、性別、官民の別なく「適した仕事につけた」が最も多く、他方、消極評価では、「適応するのに苦労」が最も多く——特にその比率が官公労に多い——、次いで「経済的負担の増」や「人間関係が困難」があげられている。

〈職場生活の満足点・不満点〉（表2—4、2—5）に関しては、現在の生活一般についてと同様、〈不満点〉より〈満足点〉に「無回答」の率が高く、また、〈満足点〉の内容は〈不満点〉に比して分散する傾向がある。職場生活の〈満足点〉として最も多くあげられる点は、男性の場合は、官民を問わず「職場の人間関係」であり、女性の場合は、官民差がみられ、官公労では「生活の保障」、民間では「人間関係」や「時間や管理」となる。他方、職場生活の〈不満点〉

表 2-1 転 職 経 験

			同業種で1回	同業種で2回	同業種で3回	他業種で1回	他業種で2回	他業種で3回	4回以上	転職経験無	無回答
岩	民間	男女	10.3	11.7	10.8	12.9	7.0	7.6	5.4	32.3	2.0
		計	13.3	10.2	6.1	11.9	4.9	4.6	1.9	43.7	3.5
			11.0	11.4	9.8	12.7	6.5	7.0	4.6	34.6	2.5
手	官公労	男女	8.1	4.7	2.3	12.8	3.5	2.1	1.4	64.0	1.2
		計	11.3	3.6	1.6	11.3	2.0	1.3	0.5	65.9	2.5
			9.0	4.4	2.1	12.4	3.1	1.9	1.1	64.4	1.6
宮	民間	男女	9.5	10.5	8.7	11.2	5.7	7.9	4.4	40.7	1.4
		計	13.2	8.9	4.7	12.0	4.9	2.7	1.1	45.9	6.5
			10.4	10.2	7.8	11.4	5.5	6.6	3.6	41.9	2.6
城	官公労	男女	9.8	4.2	2.6	11.0	3.0	1.8	1.7	65.3	0.7
		計	14.2	5.5	2.7	10.5	1.4	1.8	0.5	62.6	0.9
			10.3	4.3	2.6	10.9	2.8	1.8	1.5	65.0	0.8

表 2-2 転 勤 経 験

			単身赴任 1 回	単身赴任 2 回	単 3 身回 赴以 任上	家族 同伴 1 回	家族 同伴 2 回	家 3 族回 同以 伴上	転住 勤居 働変 した 更せ たが ず	転 勤 経 験 無	無 回 答
岩 手	民 間	男	8.6	5.5	4.6	3.4	1.2	2.1	6.4	64.0	4.2
		女	3.8	2.7	2.0	1.2	0.4	0.5	4.9	78.0	6.5
		計	7.6	4.9	4.1	2.9	1.0	1.7	6.0	66.8	5.0
	官公労	男	11.1	8.9	9.8	4.6	3.6	9.2	5.4	45.4	1.9
		女	9.9	4.8	7.2	3.3	2.7	4.9	10.5	54.9	2.0
		計	10.8	7.8	9.1	4.2	3.4	8.1	6.7	47.7	2.0
宮 城	民 間	男	11.0	6.1	5.2	4.4	2.0	3.5	7.2	57.2	3.3
		女	4.3	0.9	1.8	1.5	0.7	0.6	4.4	76.0	9.7
		計	9.4	4.8	4.4	3.7	1.7	2.8	6.5	61.8	4.9
	官公労	男	13.6	7.3	8.9	3.4	2.4	7.2	15.9	40.1	1.2
		女	9.6	5.0	6.4	2.3	0.5	2.7	20.5	52.1	0.9
		計	13.1	7.0	8.6	3.3	2.2	6.7	16.4	41.5	1.2

表 2-3 転勤・配置換えに対する評価

			昇進になった	賃金上がる	適した仕事に	昇進面で不利	経済的負担増	適応に苦労	人間関係困難	経験なし	無回答
岩手	民間	男	1.9	3.4	10.6	3.1	9.6	14.4	7.8	35.4	13.3
		女	1.1	3.2	9.3	0.8	3.5	10.5	10.4	40.3	21.0
		計	1.7	3.5	10.3	2.6	8.2	13.6	8.4	36.3	15.6
	官公労	男	1.7	2.2	9.2	2.0	16.5	20.6	5.5	30.9	11.5
		女	0.8	1.6	9.1	0.6	7.2	16.8	10.2	34.7	18.9
		計	1.5	2.0	9.1	1.6	14.1	19.6	6.7	31.8	13.5
宮城	民間	男	1.8	3.8	12.6	2.6	10.5	14.2	9.4	32.1	13.0
		女	0.8	2.1	11.7	0.7	2.2	8.5	10.7	37.4	25.8
		計	1.6	3.4	12.4	2.1	8.5	12.9	9.7	33.4	16.1
	官公労	男	3.8	2.9	12.2	2.3	15.4	20.2	7.1	25.6	10.5
		女	1.4	1.4	11.4	0.9	3.2	20.1	8.7	28.3	24.7
		計	3.5	2.7	12.1	2.1	14.0	20.2	7.3	26.0	12.1

表 2-4 職場生活の満足点

			賃金水準	昇進昇格	能力発揮	職人間関係	福利厚生	労災や職業病	時間や管理	生活の保障	無回答
岩手	民間	男	6.8	1.9	10.9	28.3	5.8	4.6	13.3	7.1	21.2
		女	6.4	0.9	6.5	18.3	6.2	3.5	19.8	8.1	30.3
		計	6.9	1.7	9.9	26.1	5.9	4.4	14.7	7.3	23.3
	官公労	男	3.0	1.7	7.9	26.1	13.0	2.9	11.4	20.2	13.7
		女	4.2	0.3	9.7	17.8	12.3	1.4	12.1	24.3	18.0
		計	3.4	1.4	8.3	23.9	12.8	2.5	11.6	21.2	15.0
宮城	民間	男	8.7	2.0	9.7	28.4	4.7	4.4	13.7	8.3	20.0
		女	6.0	1.1	5.3	25.0	4.2	3.1	15.6	7.1	32.6
		計	8.0	1.8	8.6	27.6	4.6	4.1	14.2	8.0	23.2
	官公労	男	2.6	2.6	6.3	29.4	13.0	3.3	14.4	15.3	13.2
		女	3.7	2.3	10.0	16.9	7.3	0.9	14.6	24.7	19.6
		計	2.7	2.5	6.7	27.9	12.3	3.0	14.4	16.4	13.9

表 2-5 職場生活の不満点

			賃 金 水 準	昇 進 昇 格	能 力 発 揮	職人 間 関 の係	福 利 厚 生	労 災 や 職 業 病	時 間 や 管 理	生 活 の 保 障	無 回 答
岩	民 間	男	48.8	3.9	3.1	9.6	3.1	4.5	7.2	15.6	4.2
		女	39.9	3.3	3.5	19.2	2.3	4.5	6.3	11.2	9.8
		計	46.6	3.7	3.1	11.7	3.0	4.5	7.0	14.7	5.7
手	官公労	男	59.9	5.8	4.5	8.3	1.0	2.1	9.0	6.1	3.2
		女	33.6	4.2	4.1	20.8	2.0	2.9	16.9	6.1	9.4
		計	53.0	5.4	4.4	11.5	1.3	2.3	11.1	6.1	4.9
宮	民 間	男	45.8	5.6	3.5	7.8	3.8	5.7	9.9	12.9	5.0
		女	38.9	2.1	2.5	13.3	2.4	5.9	8.7	10.6	15.6
		計	44.2	4.8	3.2	9.1	3.5	5.7	9.6	12.4	7.5
城	官公労	男	69.0	7.3	4.2	5.2	1.5	1.3	4.5	4.9	2.1
		女	27.4	9.1	5.0	16.0	1.8	7.3	14.2	5.0	14.2
		計	64.1	7.5	4.3	6.5	1.6	2.0	5.6	4.9	3.5

表 2-6 月の手取収入

			10 万 円 未 満	10 万 円 以上	15 万 円	20 万 円	25 万 円	30 万 円	40 万 円	50 万 円 以上	無 回 答
岩	民 間	男	13.9	50.9	26.9	6.3	1.0	0.1	0.0	0.1	0.8
		女	65.1	27.2	4.8	0.4	0.4	0.1	0.1	0.0	1.9
		計	25.3	45.5	21.9	5.1	0.9	0.1	0.0	0.1	1.2
手	官公労	男	24.1	40.3	24.9	8.8	1.1	0.2	0.1	0.0	0.5
		女	25.7	48.7	19.3	4.2	0.8	0.4	0.1	0.0	0.8
		計	24.4	42.5	23.5	7.6	1.1	0.3	0.1	0.0	0.6
宮	民 間	男	9.7	40.8	34.4	10.1	3.3	0.9	0.1	0.2	0.4
		女	64.7	26.3	4.8	1.2	0.4	0.3	0.3	0.1	1.9
		計	23.0	37.3	27.3	8.0	2.6	0.8	0.2	0.1	0.8
城	官公労	男	31.5	33.6	22.4	10.0	1.8	0.2	0.1	0.1	0.3
		女	17.8	50.2	25.1	5.5	0.5	0.0	0.5	0.0	0.5
		計	29.9	35.6	22.8	9.4	1.7	0.2	0.1	0.1	0.3

はもつばら賃金水準に集中するが、その割合には性別差、官民差がみられる。性別には、その割合は、官民の別なく、女性より男性に多いが、男女間のひらきは特に官公労の場合に大きい。官民別には、その両者間の差異が男女で異なり、男性の場合には官公労に、女性の場合には民間に「賃金水準」を「不満点」とする比率が高い。

職場生活の各項目に關して、「満足」「不満」の相対比からみると、「人間關係」「福利厚生」「能力發揮」の諸点は「不満点」よりも「満足点」として、逆に、「賃金水準」や「昇進・昇格」は「満足点」より「不満点」としてあげられる比率が高く、その点は性別及び官民別を問わず共通するが、「生活の保障」については、官民間で異なり、官公労の場合は「不満点」より「満足点」として、民間の場合は逆に「満足点」より「不満点」としてより多くあげられる。

職場生活の「不満点」はもつばら「賃金水準」に集中しているが、回答された「本人の手取り月収」(表2-6)から「平均月収額」を試算すると、宮城の場合、男性について、民間「15万5千円」、官公労「13万4千円」、女性について、民間「9万7千円」、官公労「13万6千円」となり、岩手の場合は、男性について、民間「14万円」、官公労「13万7千円」、女性について、民間「9万6千円」、官公労「12万6千円」となる。ただし、サンプルの年齢構成に官民差があるため、各年齢層別の「平均月収」で比較すると、宮城・岩手共通に、男性の場合は、30代までは民間が官公労を上回り、40代以上は官公労が民間を上回るが、女性の場合は、10代を除いて、どの年齢層でも官公労が民間を上回っている。

職場生活に關する満足点・不満点の質問では、「不満点」の内容は、「賃金水準」や「生活の保障」など経済的・物質的側面に集中するが、質問の形式をかえると、労働組合員の求める要求には別の側面もみられる。〈労働時間〉(表2-7)との組み合わせにおいては、性別、官民別を問わず、「手当」や「賃金増」より「休暇」に対する要求の方が強くでているのである。労働時間の問題に対する関心のあり方を「残業」「週休」「年休」の三者に区分すると、「週休」問

題への関心が最も多く、次いで「年休」、「残業」の順となるが、それらの割合には官民差がみられ、男性の場合、「週休」問題は民間より官公労に、「残業」問題は官公労より民間に多くあげられる。「残業」に関して、「手当の増」と「時間短縮」を比較すると、岩手の官公労女性を例外として、いずれも後者より前者をより多く求め、他方、「週休」問題に関して、「賃金増」と「二日制の実施」を比較すると、岩手の民間男性を例外として、いずれも前者より後者の「二日制の実施」を求める割合が相対的に多い。しかし、「二日制の実施」か「賃金増」かの比率には当然ながら「本人の月収額」が関連しており、岩手の場合に言えば、官公労で「10万以上」、民間で「15万以上」の層で、前者の比率が後者を上回るのである。

〈職場での自己の将来〉(表2—8)については、「持ち場を守り勤めあげる」が官民を問わず最も多くを占め、次いで「特に希望なし」や「適当な時期に退職」など、総じて消極姿勢が過半を占め、それらの比率は年齢に比例して高くなっていく。

職場生活に関しては、〈転職〉〈転勤〉〈職種の変動〉といった客観的屬性については、官民間の差と並んで地域差がみられるが、主観的な意識の面ではかなり共通のパターンがみられる。職場生活の〈満足・不満足〉では、〈不満足〉はもっぱら経済的側面に集中しているが、他面、労働時間の問題も意識の上では大きな比重をもってきている。特に、「週休二日制の実施」への高い要望は、生活様式の変化だけではなく、次にみる〈職場における最近の変化〉や〈合理化〉における「労働管理強化」をも反映しているかもしれない。

表 2—7 労働時間に対する考え方

			残の 業短 時 間縮	残 業手 当の 増	残 業時 間確 保	週 の 休 二 実 日 制 施	週 賃 休 制 金 よ り 増	年 休 の 増 加	年 完 全 休 消 の 化	無 回 答
岩 手	民 間	男	7.1	9.8	2.8	28.6	31.3	7.0	11.0	2.4
		女	4.0	6.5	1.2	33.7	27.3	9.9	11.2	6.4
		計	6.4	9.0	2.5	29.8	30.3	7.6	11.0	3.4
	官公労	男	2.9	5.2	2.0	42.0	29.9	7.6	8.6	1.9
		女	3.9	3.5	1.4	41.8	20.3	8.6	14.8	5.7
		計	3.1	4.7	1.9	41.9	27.4	7.9	10.1	2.9
宮 城	民 間	男	6.4	11.7		35.5	25.0	6.0	13.5	2.1
		女	3.5	7.5		37.7	26.1	7.5	7.9	9.9
		計	3.7	10.5		36.0	25.2	6.4	12.1	4.0
	官公労	男	1.8	8.4		38.9	35.9	6.2	6.9	1.8
		女	2.7	6.4		52.5	13.7	5.9	12.8	5.9
		計	2.0	8.1		40.5	33.3	6.2	7.6	2.3

表 2—8 職場での自己の将来

			持勤 場め をあ 守け りる	昇転 来・ 他 に職	役腕 付を とし てう	専身 につ け能 を立	特に 希望 なし	適退 当な 時期 に戦	仕に 事生 より 趣が 味い	社 会的 活動 ・地 力域 点	無 回 答
岩 手	民 間	男	40.0	9.0	6.4	7.9	16.9	6.6	6.1	3.9	3.0
		女	44.1	8.2	1.7	4.7	17.7	10.5	4.7	2.4	4.0
		計	40.9	8.8	5.3	7.2	17.1	7.5	5.8	3.6	3.8
	官公労	男	39.4	5.4	8.3	5.3	12.8	10.9	8.4	7.2	2.5
		女	44.5	4.8	5.4	2.4	9.5	19.5	5.5	3.6	4.8
		計	40.7	5.2	7.6	4.5	11.9	13.2	7.6	6.2	3.1
宮 城	民 間	男	33.2	11.3	7.9	6.2	18.5	8.1	8.0	3.8	3.1
		女	39.0	5.2	1.3	3.4	19.6	12.7	6.3	2.5	10.0
		計	34.6	9.8	6.3	5.5	18.7	9.2	7.6	3.5	4.8
	官公労	男	27.1	14.1	8.2	3.6	14.9	12.0	11.3	6.4	2.4
		女	36.1	16.0	3.2	1.8	9.6	16.9	10.0	1.8	4.6
		計	28.2	14.4	7.6	3.4	14.3	12.6	11.1	5.9	2.7

三 労使関係

〈職場で最近起っている変化〉(表3-1)としてあげられた点は、官民を問わず、「仕事範囲の拡大」が最も多く、次いで「労働管理の強化」となるが、特に官公労の男性の場合は、その両者の比率で半数以上を占める。他方、「残業・休日出勤の増加」や「配転・出向の増大」の指摘は、男女ともに、官公労より民間に多くみられる。

問題をより限定して、〈現在、各職場で進められている合理化〉(表3-2)について、特に目立った点としてあげられたものでも、男女及び官民の別なく、回答者の半数以上が「人員増を抑え、一人当りの仕事量の増加」を指摘している。ただ、その比率は、官公労より民間にやや高く、加えて、民間の場合には、官公労に比して、「コスト低減のため」の管理強化」や「労働力強化や超勤増」をあげる比率が高い。他方、官公労の場合には、民間に比して、「技術革新による人べらし」「下請外注の増加」「コンピュータ導入による合理化」——宮城・岩手の間で、選択肢が一項目異なり、地域差があるが——などをあげる比率が高い。

その際、〈合理化の進め方〉(表3-3)に関して、使用者側が「一方的に行う」とする割合は約二割前後で、組合なり現場なりとの「協議による」とする割合が半数以上を占めている。

使用者側が「一方的に行う」とする割合は、官公労より民間に幾分多いが、それらの比率には、官民差よりも地域差が目立っており、官民を問わず、「協議による」とする比率は岩手より宮城の場合に高い。「協議による」とする場合、その協議に「現場」が関わる比率と、組合が関わる比率とを比較すると、官民を問わず、「組合」が関わる比率が約六割を占め、その点に地域差は少ない。他方、「協議」に関わる場合、「意見が入れられる」とされる比率は、民間で約七

表 3-1 職場での最近の変化

			仕 範 事 業 の 大	出 勤 の 増 加	労 働 の 強 化 管 理	省 の 力 進 化	配 の 転 ・ 増 出 向	臨 時 工 ・ 増 加	技 術 対 革 新 困 難	昇 の 進 ・ 争 身 激 格	無 回 答
岩	民 間	男	24.6	12.4	19.6	14.9	10.3	2.6	7.6	2.1	6.0
		女	21.3	12.3	14.4	10.7	5.9	5.7	7.6	2.3	19.7
		計	23.8	12.4	18.5	13.9	9.3	3.3	7.5	2.1	9.2
手	官公労	男	30.4	6.1	29.5	13.4	2.1	2.3	5.8	5.1	5.2
		女	33.4	7.9	19.1	7.6	2.7	4.5	4.5	3.2	17.2
		計	31.2	6.5	26.7	12.0	2.3	2.9	5.4	4.6	8.3
宮	民 間	男	27.6	10.2	22.9	14.9	6.6	3.2	6.6	2.9	5.1
		女	23.9	9.1	17.5	9.4	4.4	7.7	5.9	2.1	20.3
		計	26.7	9.9	21.6	13.5	6.0	4.3	6.5	2.7	8.7
城	官公労	男	27.1	3.8	27.2	19.7	3.1	1.7	8.5	3.9	5.0
		女	31.1	3.2	16.4	14.2	4.6	1.4	1.8	4.1	23.3
		計	27.5	3.7	26.0	19.0	3.3	1.6	7.8	4.0	7.2

表 3-2 職場における合理化

			技 術 革 新 に し	人 事 事 業 の 増 加 制 制	事 務 部 門 の 縮 小 配 転	下 の 請 増 外 加 注	コ ン ピ ュ ー 化 理 理 化	生 産 部 門 へ の 導 入	労 働 力 強 化 増 加	コ ス ト 低 減 の 化	無 回 答
岩	民 間	男	7.1	52.3	1.6	4.4	5.4	0.4	9.5	11.4	7.9
		女	6.3	44.0	3.4	2.9	9.0	0.4	5.6	7.1	21.4
		計	7.0	50.3	2.0	4.1	6.2	0.4	8.6	10.4	11.0
手	官公労	男	7.7	46.3	1.3	14.0	7.3	0.2	3.1	3.3	16.8
		女	7.3	33.3	1.9	3.2	10.2	0.1	3.8	1.8	38.5
		計	7.6	42.9	1.4	11.2	8.1	0.2	3.3	2.9	22.5
宮	民 間	男	7.8	54.4	1.9	1.4	10.3	0.7	8.0	9.3	6.2
		女	4.9	47.4	2.3	1.3	9.7	0.6	3.5	7.7	22.6
		計	7.1	52.7	2.0	1.3	10.1	0.7	6.9	8.9	10.1
城	官公労	男	17.7	49.9	1.7	0.4	15.1	0.2	2.2	4.2	8.6
		女	2.3	41.6	0.9	0.0	17.4	0.0	1.4	1.4	35.2
		計	15.8	48.9	1.6	0.3	15.3	0.2	2.1	3.9	11.8

※ 宮城における選択肢は「販売部門への配転」となっている。

表 3—3 合理化の進め方

			経一 営方 側の 意見 に	現 場と 意見 を 協 議 する	現 場と 意見 は 無 視 する	組 合と 意見 を 協 議 する	組 合と 意見 は 無 視 する	配 転 や 転 勤 を 一 方 的 に	配 転 の 希 望 は 本 心 で	労 使 交 渉 対 立 中	無 回 答
岩	民 間	男	19.7	7.1	5.9	24.1	12.1	5.5	6.0	9.3	10.3
		女	22.2	7.5	3.5	17.5	6.5	6.5	1.9	6.5	27.7
		計	20.2	7.1	5.4	22.6	10.8	5.7	5.1	8.7	14.3
手	官公労	男	20.1	4.9	6.3	13.3	17.7	3.7	6.5	5.7	21.9
		女	11.2	4.5	3.0	9.9	8.8	5.3	8.0	3.2	46.1
		計	17.8	4.8	5.4	12.4	15.3	4.1	6.9	5.0	28.2
宮	民 間	男	18.1	9.3	6.8	28.8	12.7	4.5	5.6	5.5	8.7
		女	14.2	10.1	5.0	22.0	7.5	3.9	3.5	4.1	29.6
		計	17.2	9.5	6.4	27.2	11.5	4.4	5.1	5.1	13.8
城	官公労	男	13.3	6.9	7.3	23.2	17.5	2.3	10.5	7.4	11.6
		女	5.9	5.0	3.7	11.4	8.7	3.7	8.7	7.3	45.7
		計	12.5	6.7	6.8	21.8	16.4	2.5	10.2	7.4	15.7

表 3—4 労 使 交 渉

			組 合 交 渉 は あ る が し	組 合 交 渉 が 妥 協 的 な こ と を 求 め る	使 用 者 側 の 理 解 が よ い の を 求 め る	交 渉 が 主 張 し て い く と 思 う	使 用 者 側 が 主 張 し て い く と 思 う	弱 体 化 を 要 求 し て い く と 思 う	経 営 側 の 悪 化 を 求 め る	組 合 側 の 悪 化 を 求 め る	無 回 答
岩	民 間	男	1.6	9.9	2.0	7.2	16.7	15.0	16.6	26.7	4.4
		女	1.2	8.8	2.2	10.5	19.6	13.3	11.5	18.7	14.2
		計	1.6	9.7	2.0	8.0	17.3	14.6	15.4	24.8	6.7
手	官公労	男	4.3	7.1	4.5	11.5	24.4	23.4	12.5	4.2	8.2
		女	5.6	7.3	4.5	8.8	18.0	23.7	5.5	3.3	23.3
		計	4.6	7.1	4.5	10.8	22.8	23.4	10.7	3.9	12.2
宮	民 間	男	2.0	12.1	2.4	8.7	14.7	14.6	18.3	23.2	4.2
		女	2.9	10.9	2.3	9.9	13.6	12.1	15.0	15.5	17.7
		計	2.2	11.8	2.4	9.0	14.4	14.0	17.5	21.3	7.4
城	官公労	男	2.3	9.1	8.5	17.0	23.9	15.7	12.9	2.8	7.9
		女	4.6	6.8	7.3	11.4	14.2	16.0	5.0	1.4	33.3
		計	2.5	8.8	8.4	16.3	22.7	15.7	11.9	2.6	10.9

割前後、官公労で約六割強となるが、岩手の官公労男性については例外で、その比率が約半数である。「現場との協議」の場合も、「組合との協議」の場合も、総じて、「意見が入れられる」とする割合が「意見が無視される」を上回っている——例外的に、岩手の官公労男性については、いずれの場合も「意見が無視される」が上回っている——が、「協議」に関わり、かつ同時に「意見が入れられる」とするポジティブな回答の比率は、最も高い場合で宮城の男性の約四割、逆に低い場合は岩手の官公労で二割強となる（「協議」及び「意見採用」の比率における地域差は、特に官公労男性の場合に大きい）、官公労内部で各事業所により大きな差異もあるため、官公労内部のサンプル構成における地域差に留保が必要である）。

〈職場における労使交渉〉（表3—4）については、性別及び官民の別を問わず、「厳しい」とする判断が「スムーズ」とする判断を大きく上回っており、特に民間男性の場合は、その比率が約八割を占める。「厳しい」とする判断、「スムーズ」とする判断のいずれについても、その具体的理由には官民差がみられ、前者の場合には、「経営悪化で使用者側強固」や「経営悪化で組合側譲歩」は民間に、「使用者側強行」や「組合弱体で要求通らず」は官公労により多くみられ、後者の場合は、民間についてはその理由のほとんどが組合の「妥協的」対応にあるとみられているのに対し、官公労では「組合の妥協」と「使用者側の理解」が約半々となっている。

労働省の「労働爭議統計調査年報告」によると、八〇年代に入って、実際にストライキ権を行使する率は急激に低下してきているが、スト権行使の是非そのものについては、なお、労働組合員と非組合員との間に大きな意見のひらきがある（表3—5）。しかし、労働組合員の場合でも（表3—6）、「団交決裂のときにストをすべきだ」とする割合が、官民を問わず、何らかの理由でスト権の行使に消極的な意見の割合を上回っているが、「団体交渉の背後の力として、スト権を活用すべきだ」とする意見が最も多くの割合を占めている。

表 3—5 ストライキについて

			国鉄・郵便の場合				教 師 の 場 合			
			労 組 員		非 組 合 員		労 組 員		非 組 合 員	
			是	非	是	非	是	非	是	非
20 〜 30 代	仙 台	'76	68.5	29.6	47.3	52.1	59.3	37.0	43.2	56.8
		'79	57.3	42.7	44.8	53.8	53.3	46.7	37.8	60.8
		'80	51.4	45.8	44.8	53.7	40.3	56.9	38.1	60.4
		'83	64.1	35.9	42.9	54.6	60.9	39.1	33.2	64.4
	福 島	'76	70.5	27.9	42.7	55.1	60.7	37.7	32.6	64.0
		'79	55.8	36.5	31.7	65.3	42.3	50.0	26.7	69.3
		'80	65.0	30.0	46.2	51.2	60.0	35.0	38.8	58.8
		'83	50.0	46.4	35.0	63.3	42.9	53.6	31.7	66.7
40 代 以 上	仙 台	'76	46.2	53.8	22.0	75.0	38.5	61.5	10.6	87.9
		'79	52.0	46.0	24.2	73.9	34.0	62.0	19.6	79.1
		'80	54.3	43.5	21.9	76.9	39.1	58.7	11.9	86.2
		'83	43.1	56.9	31.0	66.5	41.2	56.9	24.5	74.5
	福 島	'76	55.6	36.1	27.0	71.3	44.4	47.2	17.4	80.9
		'79	52.5	47.5	21.1	74.2	37.5	62.5	15.6	79.7
		'80	66.7	30.6	21.0	76.2	58.3	38.9	13.3	84.8
		'83	62.8	34.9	30.0	67.3	55.8	41.9	22.7	73.6

〈人勸・仲裁問題〉(表3—7)については、当然ながら、民間と官公労の間に大きな違いがある。「完全実施」を求める意見は、官公労では三分の二、民間で二割強で、民間には「凍結あるいは削減やむえない」とする意見も一割強ある。しかし、その意見は、凍結に対する積極的な反対意見——「政府責任を官公労働者に転嫁するもの」及び「民間労働者へも波及するから反対」——よりも少ない。制度そのものの改変を求める意見では、民間には「団交権を認めるべき」とする意見がより多く、官公労には「スト権を認めるべき」とする意見がより多くみられるといった官民差がある。

労使交渉やスト権の行使に関する労働組合員の意識からすると、組合運動が「戦術論」から「戦略論」への転換を必要としていることを推測させるが、〈経営参加〉問題につい

表 3—6 ストライキ権の行使

			団と 交決 裂の スト	団力 交の 背後 のスト	行方 がな わな い	組 合 件 が 微 力 い	企 業 スト は 弱 体 避	世 論 反 発 で い	で き な い 係 る	悪 化 さ し る	ス ト 禁 止 に は 置 置	無 回 答
岩 手	民 間	男	19.5	50.3	6.4	5.5	4.5	1.3	4.4	3.4	4.7	
		女	19.6	42.7	6.9	4.6	2.8	1.2	4.9	2.5	14.9	
		計	19.6	48.5	6.5	5.3	4.1	1.3	4.5	3.2	7.1	
	官公労	男	20.5	40.7	2.6	3.5	0.6	2.9	2.0	22.8	4.4	
		女	15.7	33.5	3.3	4.8	0.9	2.8	5.0	19.7	14.3	
		計	19.3	38.8	2.8	3.9	0.7	2.9	2.8	22.0	7.0	
宮 城	民 間	男	28.5	49.7	4.0	3.9	3.3	0.9	2.4	2.8	4.5	
		女	23.7	37.4	6.4	3.0	3.0	0.5	2.9	3.2	19.8	
		計	27.3	46.7	4.6	3.7	3.2	0.8	2.5	2.9	8.2	
	官公労	男	29.8	40.5	1.8	1.4	0.7	2.3	0.6	19.2	3.7	
		女	22.4	28.8	1.4	1.4	0.0	4.6	1.4	19.6	20.5	
		計	28.9	39.1	1.8	1.4	0.7	2.5	0.7	19.3	5.7	

表 3—7 人事院勧告、仲裁裁定と団体交渉権、スト権

			完 全 実 施	凍 責 任 結 は嫁	凍 民 間 結 波 は及	凍 や む を 得 な い	ス ト 仲 裁 裁 定 廃 止 付 与	ス ト 渉 認 め る 対 交 き	ス ト 体 に は 認 め 企 る	無 回 答
岩 手	民 間	男	24.3	6.7	11.1	15.7	9.8	18.5	2.7	11.1
		女	19.6	3.8	9.6	7.8	7.2	17.1	2.8	32.2
		計	23.1	6.0	10.7	14.0	9.2	18.1	2.8	16.0
	官公労	男	69.2	7.3	4.2	1.6	12.8	1.5	0.5	3.0
		女	59.5	7.7	6.5	1.9	3.3	6.7	0.6	13.7
		計	66.7	7.4	4.8	1.6	10.3	2.8	0.5	5.8
宮 城	民 間	男	24.6	7.5	14.1	13.5	12.5	15.6	2.7	9.4
		女	13.9	6.2	13.6	6.6	5.9	15.9	1.9	36.0
		計	22.2	7.2	14.0	11.8	10.9	15.7	2.5	15.8
	官公労	男	67.2	9.3	4.5	0.8	14.2	0.9	0.9	2.3
		女	55.3	11.0	7.8	0.5	4.1	5.5	0.0	16.0
		計	65.7	9.5	4.9	0.8	13.0	1.4	0.8	4.0

てどのようにみているであろうか。へ経営参加へについては、その定義をめぐって各種の議論があるが、ここでは、最も広い概念で質問されている（表3—8、3—9）。事業所の経営や運営への「参加」を広い概念で捉えた場合、現状の「参加」率は、民間で約五割五分、官公労では、地域差があり、宮城で六割強、岩手で五割弱となる。「参加」の内容からみると、「賃金・労働時間など労働条件、及び作業環境・福利厚生」「賃金・労働時間などの労働条件のみ」が多くあげられ、次いで「配転・昇進など人事管理とその他」の順となり、「投資・開発などの経営方針」への参加はきわめて少ない。他方、へ参加の目標という点からみると、「参加すべき」とする割合は現状の「参加率」を約10%程度上回っているが、参加の内容において、現状と目標を比べると、性別、官民の別を問わず、「配

表3—8 経営参加——現状

			な	①	②	③	①	②	④い	⑤い	無
			し	だ	だ	だ	と	と	と①③のか	と①④のか	回
岩手	民間	男女計	25.7	16.6	3.2	2.3	18.7	1.8	11.3	3.6	16.8
		男女計	20.0	15.0	2.8	1.9	13.1	1.4	7.5	3.1	35.1
		男女計	24.4	16.2	3.1	2.3	17.4	1.7	10.3	3.5	21.2
	官公労	男女計	21.7	12.9	4.8	1.1	19.1	1.6	11.1	2.5	25.3
		男女計	13.1	9.9	1.7	0.7	12.2	0.8	8.0	1.6	51.9
		男女計	19.5	12.2	3.9	1.0	17.3	1.4	10.3	2.2	32.2
宮城	民間	男女計	27.3	15.3	3.8	2.3	17.9	1.3	11.3	5.4	25.5
		男女計	17.3	12.1	3.1	1.6	12.2	1.1	10.6	2.8	39.1
		男女計	24.9	14.6	3.6	2.1	16.5	1.3	11.2	4.8	21.2
	官公労	男女計	19.6	13.8	4.1	2.0	22.4	1.7	17.7	4.1	14.8
		男女計	12.3	13.2	1.4	0.9	14.2	0.5	10.5	0.9	46.1
		男女計	18.7	13.7	3.8	1.8	21.5	1.5	16.8	3.7	18.5

① 賃金・労働時間など労働条件

② 作業環境、福利厚生

③ 作業工程、品質の管理

④ 配転・昇進など人事管理

⑤ 投資・開発など経営方針

転・昇進など人事管理とその他」及び「投資・開発など経営方針とその他」に関して、そのギャップが大きく、特に、前者については官公労の場合に、後者については民間の場合に、現状と目標との間のギャップが大きくみられる。

労働者の立場からみた〈経営戦略〉の判断では（表3—10）、回答が極めて分散しており、かつ、民間、官公労いずれについても「無回答」が相対的に一番多くの割合を占めている。経営戦略の方向を「合理化による」と「新たな経営努力」に概括二分すると、民間の場合は後者が前者を大きく上回り、官公労の場合はその両者の割合がほぼ同じ割合となる。

〈企業の社会的責任〉に対する労働組合員の考え方では（表3—11）、民間の場合は「雇用の確保・安定」及び「正常な経営と労使関

表3—9 経営参加——目標

			な	①	②	③	①	②	④いと①と③のか	⑤いと①と④のか	無回答
			し	だけ	だけ	だけ	と②	と③			
岩手	民間	男女	7.7	7.8	4.6	7.2	14.4	2.6	14.8	17.9	23.1
		女	7.2	6.4	4.0	5.2	11.1	1.3	10.9	13.0	41.0
		計	7.6	7.5	4.4	6.8	13.6	2.3	13.9	16.7	27.4
	官公労	男女	8.2	6.0	2.6	7.8	12.2	1.2	20.1	12.5	29.5
		女	5.0	4.2	1.7	5.1	7.8	0.9	12.5	6.5	56.3
		計	7.4	5.6	2.3	7.1	11.0	1.1	18.2	10.9	36.4
宮城	民間	男女	9.0	8.1	4.6	6.9	13.6	2.1	12.9	19.7	23.0
		女	7.1	8.1	4.3	3.9	7.9	1.3	9.7	11.0	46.7
		計	8.5	8.1	4.5	6.2	12.2	1.9	12.2	17.6	28.7
	官公労	男女	11.5	6.9	2.9	8.6	11.3	1.6	21.1	14.3	21.8
		女	5.5	6.4	2.3	4.1	6.8	1.4	12.8	4.6	56.2
		計	10.8	6.9	2.8	8.1	10.7	1.6	20.1	13.1	25.9

- ① 賃金・労働時間など労働条件
- ② 作業環境、福利厚生
- ③ 作業工程、品質の管理
- ④ 配転・昇進など人事管理
- ⑤ 投資・開発など経営方針

表 3-10 経営戦略の判断

			賃金 コスト 低減 上昇	雇用 問題 発生 は	やむ な し 導 入 し	新製 品の 仕 事 の 開 発 や	新販 路の 開 拓 業	社内 的の 業 向 績 上	全 体 シ ス テ ム 改 善	現 行 で よ い	無 回 答
岩手	民間	男	15.2	1.5	2.1	16.5	15.7	11.8	12.4	12.4	12.6
		女	11.5	3.4	1.9	15.0	7.0	8.2	8.8	13.1	31.2
		計	14.3	1.9	2.0	16.2	13.7	10.9	11.5	12.6	16.9
	官公労	男	7.3	5.4	2.1	4.3	4.9	15.7	16.2	15.5	28.6
		女	3.2	4.2	1.3	3.4	3.3	6.9	10.3	12.7	54.8
		計	6.3	5.1	1.8	4.1	4.4	13.4	14.6	14.8	35.4
宮城	民間	男	14.5	2.5	3.0	15.8	15.0	10.9	13.8	13.3	11.1
		女	9.9	2.4	2.2	14.5	6.5	6.1	11.0	13.6	33.8
		計	13.4	2.5	2.8	15.5	13.0	9.8	13.1	13.4	16.6
	官公労	男	8.2	6.9	2.7	4.2	5.4	19.0	15.3	19.2	18.3
		女	1.8	5.0	1.8	0.5	2.3	9.6	10.0	17.4	51.6
		計	7.5	6.7	2.6	3.7	5.0	18.4	14.7	19.0	22.3

表 3-11 企業の社会的責任

			地寄 域の 発展 に与	雇安 用の 確 保 定	不発 正し は内 部正 告す	利還 益を 社会 に元	社当 会的 規制 も然	正労 使関 係維 持と	個限 別企 業に は界	責も 無意 を論 じて 味	無 回 答
岩手	民間	男	14.8	33.4	6.5	4.2	1.1	22.4	4.3	5.5	7.8
		女	10.8	25.7	6.5	3.4	1.2	19.5	3.8	5.0	24.2
		計	13.8	31.7	6.4	4.0	1.1	21.4	4.2	5.5	11.7
	官公労	男	18.9	21.9	7.7	15.0	2.2	17.3	2.8	5.2	9.0
		女	16.9	16.9	8.5	9.4	1.9	16.1	1.7	3.8	24.9
		計	18.4	20.7	7.9	13.5	2.1	17.0	2.5	4.9	13.1
宮城	民間	男	15.3	29.2	6.5	5.7	1.4	21.2	5.5	7.7	7.5
		女	9.7	25.4	5.3	3.9	1.3	16.0	3.1	6.0	29.2
		計	13.9	28.3	6.2	5.3	1.4	20.0	4.9	7.3	12.8
	官公労	男	15.5	20.8	8.3	17.6	1.8	17.9	3.4	7.6	7.1
		女	12.3	11.9	7.3	12.8	1.8	19.2	3.2	4.1	27.4
		計	15.1	19.7	8.2	17.0	1.8	18.0	3.4	7.2	9.5

係の維持」に集中し、次いで「地域の発展に寄与」となるが、官公労の場合は、回答がやや分散する傾向がある。回答の内容を、「企業内条件」と「対社会的条件」に二分すると、民間では前者が後者を上回り、官公労では後者が前者を上回っている。

労使関係に関する諸項目では、とりわけ、〈労使交渉〉〈経営戦略〉〈ストライキ〉〈人勸・仲裁〉について官民差が、また、〈職場での変化〉や〈合理化〉の内容について業種別差が大きくみられるが、〈合理化の進め方〉における「協議」、〈経営参加〉における「参加志向」では、幾分地域差はあるにせよ、全般的な傾向としては、「労使協議」方式や「経営参加」方式への移行がみられる。同時に、〈ストライキ権の行使〉に対する労働組合員の考え方と合わせてみると、組合運動にとっては、戦術論からより広い戦略論への転換が必要になってきているように思われるが、他面、かなり強くみられる「企業主義」の枠をどのように克服するかも重要な課題であるように思われる。

四 組合活動

〈労働組合の現状〉(表4-1)に対する組合員の判断を、まず、組織状況からみると、「横ばい」とする判断が最も多く、民間で約四割、官公労で約半数を占める。次いで、「縮少」の判断が多くを占めるが、その割合には、官民を問わず、地域差がみられ、宮城より岩手にその比率が高い。その際、「縮少」の理由の大半は、民間、官公労を問わず、「新組合員の非増加」によっている。次いで、活動状況についてみると、民間の場合は、「停滞」の判断が「活発」の判断をやや上回っているが、官公労の場合には、その判断に地域差があり、宮城では「活発」が「停滞」を上回り、岩手では、逆に「停滞」が「活発」を大きく上回っている。

表4—1 労働組合の現状

			拡大・活発	拡大・停滞	横ばい・活発	横ばい・停滞	新活人非増・発	新停人非増・滞	脱退・活発	脱退・停滞	無回答
岩	民間	男	6.0	6.7	16.9	24.6	16.9	19.2	1.8	3.1	4.8
		女	8.7	6.3	15.8	19.6	14.0	13.4	3.2	4.6	14.4
		計	6.7	6.6	16.6	23.4	16.3	17.8	2.1	3.5	7.1
手	官公労	男	6.4	5.9	19.0	33.1	10.4	19.7	0.7	1.5	3.1
		女	6.6	6.3	16.6	31.5	7.0	19.8	0.7	1.4	10.1
		計	6.5	6.1	18.4	32.7	9.5	19.7	0.7	1.5	4.9
宮	民間	男	10.0	7.8	21.1	26.5	13.6	14.0	0.8	1.4	4.9
		女	13.0	7.6	17.9	17.7	13.4	10.1	0.6	1.5	18.4
		計	10.7	7.8	20.3	24.4	13.5	13.1	0.7	1.4	8.2
城	官公労	男	18.5	11.7	28.8	22.1	9.0	5.3	0.7	0.7	3.2
		女	14.2	17.8	17.8	18.3	7.8	7.3	0.0	0.5	16.4
		計	18.0	12.5	27.5	21.6	8.8	5.5	0.7	0.7	4.8

表4—2 労働組合の現在の活動の判断

			問題解決	問題限定	労働条件のみ	上部の指令	労働な使れ間あ	親ぼく団体	形だけ	道具	無回答
岩	民間	男	39.6	17.7	8.6	7.4	9.8	2.0	6.3	3.1	5.4
		女	34.5	16.6	8.2	7.5	5.7	2.1	9.2	1.8	14.3
		計	38.4	17.4	8.5	7.4	8.9	2.1	6.9	2.8	7.6
手	官公労	男	31.8	22.8	8.3	20.9	6.0	1.2	4.0	0.6	4.5
		女	29.0	23.3	6.2	14.0	6.8	1.9	4.8	0.9	13.1
		計	31.1	22.9	7.7	19.0	6.1	1.4	4.2	0.7	6.8
宮	民間	男	43.1	16.7	8.0	5.8	12.1	1.5	4.4	3.1	5.3
		女	38.5	17.4	5.9	3.7	6.9	1.0	4.1	1.9	20.6
		計	42.0	16.8	7.5	5.3	10.9	1.4	4.3	2.8	9.0
城	官公労	男	47.0	15.5	7.7	15.6	7.6	0.4	1.0	0.6	4.5
		女	31.1	20.1	6.4	9.1	11.4	1.8	1.8	0.0	18.3
		計	45.1	16.0	7.5	14.9	8.1	0.6	1.1	0.5	6.1

表 4-3 労働組合に期待した点の実現

			充 分	ま あ ま あ	あ し て ま い な り い	ま し て い た く い	無 回 答
岩 手 宮 城	民 間	男	4.0	49.1	35.8	6.9	4.3
		女	4.0	45.8	32.2	7.2	10.9
		計	4.0	48.2	34.8	7.0	5.9
	官 公 労	男	2.8	40.8	47.3	6.0	3.1
		女	3.0	42.8	40.2	5.2	8.8
		計	2.8	41.3	45.3	5.9	4.6
宮 城	民 間	男	5.5	50.4	33.1	6.6	4.5
		女	4.3	48.2	25.9	4.9	16.7
		計	5.2	49.8	31.4	6.2	7.4
	官 公 労	男	5.1	49.3	37.5	5.4	2.8
		女	2.7	40.2	41.6	4.1	11.4
		計	4.8	48.2	37.9	5.2	3.8

表 4-4 労働組合加入の意味

			労 働 条 件	仲 間	身 身 分 保 証 進	意 見 の 反 映	基 本 的 権 利	社 会 正 義	民 主 主 義	社 会 変 革	無 回 答
岩 手 宮 城	民 間	男	61.8	1.9	3.4	6.5	16.5	1.3	3.2	0.7	4.7
		女	54.2	2.3	4.7	6.9	15.2	1.9	2.2	0.8	11.8
		計	60.0	2.0	3.8	6.6	16.1	1.4	3.0	0.7	6.4
	官公労	男	57.8	4.5	3.0	3.3	14.1	2.1	8.8	3.3	3.2
		女	48.5	6.5	3.5	3.9	18.0	1.6	7.6	1.9	8.4
		計	55.3	5.0	3.1	3.5	15.1	1.9	8.5	2.9	4.6
宮 城	民 間	男	60.9	1.8	2.9	6.0	16.2	1.4	4.5	1.4	4.9
		女	53.5	2.4	3.8	5.5	15.2	0.7	1.9	0.6	16.4
		計	59.2	1.9	3.1	5.9	15.9	1.2	3.8	1.2	7.7
	官公労	男	63.5	3.0	3.6	2.5	12.7	1.4	6.6	4.0	2.8
		女	53.9	2.3	5.5	3.7	13.7	1.4	6.4	0.5	12.8
		計	62.3	2.9	3.8	2.6	12.8	1.4	6.6	3.6	4.0

〈組合活動の内容に関する評価〉(表4-2)においては、官民差のパターンに地域差はあるが、宮城・岩手のいずれにおいても、また、官民を問わず、消極評価が積極評価を上回っている。しかし、消極的評価の内容を、「活動の方針」と「組織の体質」に二分して概括すると、その両者の比率は、官民を問わず、約半々となる。

他方、〈労働組合に期待した点が現在どの程度実現されているか〉(表4-3)に関する評価では、「充分実現している」の評価及び「まったく実現していない」の明確な評価はいずれも少ないが、「実現」と「非実現」に二分すると、岩手の官公労を例外として、「実現」が過半を占めている。

先きの〈組合活動〉に対する比較的厳しい評価と、〈期待の実現度〉に関するやや肯定的な評価との間に一見ズレがあるようにみえるが、それは組合員にとって労働組合そのものの比重が低下してきていることを反映しているかもしれない。ここで、〈組合員個人にとっての組合加入の意味〉(表4-4)を問うた結果をみると、官民を問わず、もっぱら「労働条件の向上」に集中している。より概括的にいえば、「対事業所との関係の問題」が「対社会的問題」に比して、官民を問わず大きな比重を占め、前者の割合が約七割を占める。この関連で、先きの〈期待の実現度〉をみると、「実現」の評価は「対職場内問題」を加入理由とする場合により多く、「非実現」の評価は「対社会的問題」を加入理由とする場合により多くみられるのである。

また、それらのことが、労働組合運動における従来の指導に関して、一般組合員からの批判がないことを意味するわけではない。むしろ、〈上部団体の指導〉(表4-5)について、「従来通りでよい」とする割合は、官民を問わず、二割に満たず、かなり多くの組合員がなんらかの問題点を指摘している。ここで、問題点として指摘される内容を「運動の方針」に関するものと「組織の運営」に関するものとに二分すると、官民を問わず前者より後者を指摘する比率が大きく上回っているが、それぞれの比率には官民差があり、相対的にいえば、前者の「運動の方針」に関する指摘は官公

表 4—5 労働組合の上部団体の指導

			従 来 通 り	下 汲 部 み 意 上 見 げ	政 策 指 導	産 業 政 策	社 会 的 訴 え の 化	末 端 組 合 員 の 指 導	組 織 関 係 の 善	無 回 答
岩 手 宮 城	民 間	男	15.9	31.1	16.9	6.1	5.9	11.2	7.2	5.7
		女	24.4	26.4	14.2	2.6	4.3	9.7	4.9	16.5
		計	17.2	30.0	16.3	5.3	5.6	10.8	6.6	8.3
	官公労	男	13.0	43.9	10.3	1.4	6.8	11.1	9.5	4.0
		女	14.5	37.0	8.2	1.1	3.1	17.0	7.0	12.1
		計	13.4	42.1	9.7	1.3	5.9	12.6	8.8	6.2
	民 間	男	17.5	31.7	17.0	4.2	4.7	8.8	8.4	7.6
		女	21.0	25.4	13.0	1.9	2.5	9.7	5.0	21.4
		計	18.4	30.2	16.0	3.7	4.2	9.0	7.6	10.9
	官公労	男	17.8	48.8	10.8	1.0	4.8	7.9	5.8	3.1
		女	13.2	38.4	11.0	0.5	2.3	14.2	6.4	14.2
		計	17.2	47.5	10.8	1.0	4.5	8.6	5.9	4.4

表 4—6 労働組合運動の重点課題

			社 会 保 障	合 理 化 対 策 の 化	労 働 戦 線 統 一	生 活 問 題	政 治 変 革	市 民 運 動	臨 時 雇 入	中 小 民 企 と 連 帯 者	無 回 答
岩 手 宮 城	民 間	男	28.1	31.2	8.9	7.2	6.8	4.9	1.7	5.1	6.1
		女	30.4	27.3	6.6	5.0	5.0	2.3	3.8	2.3	17.3
		計	28.6	30.2	8.4	6.7	6.4	4.3	2.2	4.4	8.8
	官公労	男	22.3	17.2	13.8	8.0	15.3	13.0	0.9	5.5	4.0
		女	29.0	20.5	6.4	7.7	8.4	11.1	0.9	2.5	13.4
		計	24.0	18.0	11.9	7.9	13.5	12.5	0.9	4.8	6.5
	民 間	男	29.4	30.8	10.4	6.2	7.2	4.6	2.2	3.0	6.3
		女	30.8	23.0	6.7	4.2	4.7	1.8	4.3	3.1	21.3
		計	29.7	29.0	9.5	5.7	6.6	3.9	2.7	3.0	9.9
	官公労	男	22.4	19.1	19.4	4.1	18.2	8.5	0.7	3.3	4.1
		女	29.7	16.4	7.8	6.8	11.0	6.8	2.3	0.9	18.3
		計	23.3	18.8	18.0	4.4	17.3	8.3	0.9	3.0	5.7

労より民間に、後者の「組織の運営」に関する指摘は民間より官公労により多くみられる。

〈今後の労働運動が力を入れるべき点として重視〉(表4-6)される内容では、官民を問わず「社会保障の拡充や弱者の救済」及び「合理化に対する組合機能の強化」にかなりの割合が集中する。しかし、かりに重点課題を「社会保障」「合理化対策」「政治闘争」「地域活動」の四項目に概括すると、前二者に関して民間が官公労を上回り、逆に後二者に関しては官公労が民間を上回って、官民差のパターンが比較的明瞭に現われる。

労働組合の現状に対する組合員の評価に関して、労働調査協議会の全国調査によると、「組合活動に対する全体評価」ではかなり肯定的な意見を示しながらも、他面、「組合の政治活動」に関して、単なる「支持政党への支援」を越えるさまざまな期待が表出されていたが、ここでも同様の傾向がうかがわれる。組合員による労働組合運動の現状に対する評価には、一面では、〈期待の実現〉度において比較的積極評価の比率が高く示されているが、他面、〈活動状況〉では「停滞」、〈活動の内容評価〉では消極評価、〈上部団体の指導〉については問題点の指摘の比率がそれぞれ高く、かなりアンビバレントな態度がみられる。そして、問題点の指摘では、「組織運営」と「活動方針」が相半ばしているのである。このことは、組合員個人にとって、〈労働組合への加入の意味〉がもっぱら「労働条件の向上」に集中し、その限りで、いわゆる「脱イデオロギー化」がみられるが、今日、その「労働条件の向上」には種々の社会的条件をも必要としている状況を反映しているとみることができよう。

五 党派性と政党観

労働組合運動の現状と行方をめぐる論議における一つの争点は、労働組合と政党との関係である。労働調査協議会の

全国調査によると、労働組合員の政党支持態度は、七八年から八二年までの四年間に、既成政党支持率が六・四パーセント減少し、「支持なし」が六・二パーセント増加、特に社会党の支持率の減退——七・四パーセントの減——が問題視されたのである。

労働組合員の党派的態度と一般有権者のそれとを比較した場合（表5—1）、組合員の党派性はなお一般有権者よりかなり明瞭であるといえるが、しかし、年齢によって20代・30代までと、40代以上に二分すると、「革新政党」支持、及び「自民党嫌い」の比率は、40代以上の年齢層に比べ、20代・30代の若年層では低下する傾向にある。また、労働組合員内部にも差異がみられ（表5—2、5—3）、「革新政党」支持及び「自民党嫌い」の態度は、民間より官公労により明瞭であり、また、地域差もみられる。

また、労働調査協議会の同調査によると、〈政党との関係〉に関して、回答を「政党の活動に期待しており、ともに活動することもある」と「政党にそう大きな期待はしないがカンパ程度には応ずる」、及び「政党は自分とは関係がない」「政党はない方がよい」「わからない」に二分すると、前者は56・7%から49・9%へ減少、後者は39・8%から46・3%に増加していることが報告されている。各総選挙時に実施した仙台、福島の調査結果においては、〈政党支持の強さ〉（表5—4）に関して、労働組合員と非組合員との間に明瞭な差異があるわけではなく、むしろ、組合員、非組合員を横断して、20代・30代の若年層において、「支持強度の低下」を顕著に示している。

しかし、若年層における政党支持態度の弱化は、既成政党間の差異に関する認識においてなんらかの変化が起ったためではない。「自民党と社会党」の間、及び「社会党と共産党」の間の差異に関して、「大きな違い」を認める比率は（表5—5）、非組合員より組合員、若年層より40代以上の年齢層に幾分多くみられるが、それらの比率差はそれほど顕著ではなく、むしろ、政党間の差の認識がステレオタイプ化していることを示している。

表 5-1 労組員の党派的偏り

			男 性								女 性							
			支 持 政 党				嫌 い な 政 党				支 持 政 党				嫌 い な 政 党			
			自 民	社 共	中 道	ナ シ	自 民	社 共	中 道	NA	自 民	社 共	中 道	ナ シ	自 民	社 共	中 道	NA
20 〜 30 代	仙 台	'76	.81	1.55	.50	.80	1.13	1.09	.96	.71	.75	1.25	1.09	.96	1.14	.73	1.36	.77
		'79	.51	1.50	.60	.97	1.36	.81	.92	1.12	.59	1.20	.78	1.25	.99	.66	1.23	1.16
		'80	.83	1.18	1.33	.86	1.02	1.08	1.00	.80	.10	1.98	.89	1.15	.82	.82	1.23	1.05
		'83	.55	1.73	1.55	.59	1.43	.96	.78	.67	.69	1.62	1.15	.84	1.74	.65	1.08	.92
30 〜 40 代	福 島	'76	.49	1.22	.92	1.05	.87	.93	1.36	.77	.82	1.29	.72	.87	2.13	.82	1.04	.49
		'79	.62	1.47	1.32	.73	1.17	.82	1.28	.73	1.14	1.23	0	.84	1.35	.99	.80	1.20
		'80	.41	1.24	1.07	1.09	.98	.74	1.22	1.16	.89	1.17	1.60	.69	1.29	.83	1.20	.68
		'83	.67	1.91	1.05	.80	1.20	.96	.81	1.05	.66	1.03	1.07	1.26	0	1.08	1.21	1.26
40 代 以 上	仙 台	'76	.71	2.02	.42	1.00	1.92	.67	1.26	1.87	.74	2.11	.68	.40	2.15	.70	1.25	.99
		'79	.26	1.90	1.22	1.16	1.51	.62	1.32	1.01	.72	1.94	.61	.74	2.12	.52	2.10	0
		'80	.36	1.97	.89	.81	1.97	.63	1.40	.63	.68	2.23	1.43	1.01	.86	.73	1.24	1.09
		'83	.59	1.79	1.22	.77	1.62	.91	1.10	.79	.59	1.37	1.12	.86	1.23	.67	1.11	1.08
	福 島	'76	.31	2.42	.56	.54	1.83	.69	1.44	.79	.34	2.32	.96	.64	3.03	.50	.37	1.13
		'79	.28	2.19	1.04	1.05	2.44	.64	1.48	.42	.81	1.67	.41	.36	1.93	.68	.90	1.22
		'80	.40	2.12	1.45	.26	2.06	.73	1.68	.56	.34	2.48	.91	.46	1.84	.95	.69	1.11
		'83	.44	2.03	.88	.46	1.93	.66	1.30	.47	.60	2.19	0	.73	1.64	.65	1.31	1.12

(各カテゴリー毎平均に対する労組員 % の比)

表 5-2 支 持 政 党

			自 民 党	社 会 党	公 明 党	民 社 党	共 産 党	そ の 他	特 に な し	無 回 答
岩 手	民 間	男	12.1	50.8	1.5	3.5	3.3	6.4	16.0	6.3
		女	9.8	48.1	1.6	1.0	5.0	4.9	16.6	13.1
		計	11.6	50.3	1.5	3.0	3.7	6.0	16.1	8.0
	官公労	男	3.7	60.1	0.7	1.8	6.8	4.0	18.6	4.3
		女	4.0	52.2	1.0	1.3	5.6	2.5	22.0	11.3
		計	3.8	58.0	0.8	1.7	6.4	3.7	19.4	6.1
宮 城	民 間	男	10.8	41.5	1.8	2.0	5.0	2.7	27.0	9.2
		女	7.0	37.0	1.4	0.5	6.2	0.9	25.1	21.9
		計	9.9	40.4	1.7	1.6	5.3	2.3	26.5	12.3
	官公労	男	2.3	55.3	0.7	1.1	7.6	2.3	26.3	4.5
		女	1.8	34.7	0.5	0.9	4.1	1.9	37.9	18.3
		計	2.2	52.8	0.7	1.1	7.2	2.2	27.7	6.1

表 5-3 嫌 い な 政 党

			自 民 党	社 会 党	公 明 党	民 社 党	共 産 党	そ の 他	特 に な し	無 回 答
岩 手	民 間	男	23.6	5.9	7.9	7.4	21.6	5.5	20.3	7.9
		女	24.2	3.2	9.4	2.0	14.8	3.8	26.1	16.5
		計	23.8	5.3	8.2	6.2	20.0	5.0	21.5	10.0
	官公労	男	40.8	3.5	4.9	13.2	15.7	3.5	13.4	5.1
		女	34.1	2.0	6.5	4.2	15.2	3.5	20.6	13.9
		計	39.1	3.1	5.3	10.8	15.6	3.5	15.4	7.4
宮 城	民 間	男	22.9	7.1	11.7	5.8	17.2	2.9	21.0	11.4
		女	21.0	3.2	12.8	1.5	11.2	2.6	23.3	24.4
		計	22.5	6.1	12.0	4.8	15.8	2.8	21.6	14.5
	官公労	男	41.9	3.1	7.3	16.2	12.3	3.0	11.8	5.4
		女	32.0	1.4	15.1	1.8	14.2	1.4	13.7	20.5
		計	40.7	2.9	8.2	14.5	12.5	2.0	12.0	7.2

表 5-4 支 持 の 強 さ

			男 性								女 性							
			労働組合員				非 組 合 員				労働組合員				非 組 合 員			
			強 く	やや強 く	弱 く	ナN シA	強 く	やや強 く	弱 く	ナN シA	強 く	やや強 く	弱 く	ナN シA	強 く	やや強 く	弱 く	ナN シA
20 ～ 30 代	仙 台	'76	22.2	31.5	24.1	22.3	15.8	42.5	12.3	29.5	9.4	31.2	28.1	31.3	11.1	34.3	22.2	32.3
		'79	13.3	42.7	16.0	27.9	16.1	27.3	28.7	28.0	10.0	22.5	27.5	40.0	6.7	33.0	29.3	30.9
		'80	19.4	40.3	18.1	22.2	17.9	30.6	23.9	27.5	3.3	40.0	20.0	36.7	9.1	34.2	25.5	31.3
		'83	15.2	32.6	35.9	16.3	14.6	30.7	22.0	32.7	7.7	25.6	38.5	28.2	6.2	25.7	33.2	34.9
	福 島	'76	21.3	44.3	14.8	19.6	15.7	47.2	18.0	19.1	11.5	26.9	34.6	26.9	11.4	36.2	20.8	31.5
		'79	19.2	32.7	19.2	28.8	14.9	28.7	13.9	42.6	4.2	25.0	41.7	29.1	4.3	33.3	26.8	35.5
		'80	15.0	35.0	21.7	28.3	20.0	41.2	16.2	22.5	24.1	24.1	31.0	20.6	16.4	29.6	21.4	32.7
		'83	17.9	32.1	17.9	32.2	23.3	21.7	10.0	45.0	14.3	14.3	28.6	42.8	13.0	34.8	19.6	32.6
40 代 以 上	仙 台	'76	30.8	53.8	3.8	11.5	25.8	47.0	15.9	11.3	21.1	63.2	10.5	5.3	25.1	43.2	18.1	13.6
		'79	20.0	52.0	16.0	12.0	22.9	54.2	13.1	9.8	15.4	38.5	30.8	15.4	19.7	38.6	20.6	21.0
		'80	19.6	52.2	19.6	8.7	28.1	51.2	9.4	11.2	25.0	50.0	8.3	16.7	24.4	45.4	13.0	17.2
		'83	27.5	49.0	13.7	9.9	20.5	43.5	21.5	14.5	26.1	47.8	13.0	13.0	21.3	42.6	20.9	15.2
	福 島	'76	33.3	41.7	16.7	8.4	18.3	43.5	20.9	17.4	20.0	60.0	10.0	10.0	13.0	37.7	31.5	18.0
		'79	20.0	45.0	12.5	22.5	20.3	35.2	22.7	21.9	22.2	55.6	16.7	5.6	17.1	41.2	24.1	17.6
		'80	25.0	61.1	11.1	2.8	28.6	42.9	14.3	14.3	23.1	61.5	7.7	7.7	19.8	39.7	19.8	20.6
		'83	20.9	53.5	18.6	7.0	27.3	46.4	8.2	18.2	5.9	52.9	29.4	11.8	22.5	37.1	23.8	16.6

表 5-5 政党間の差 (男性のみ)

			労働組合員						非組合員					
			自 民——社 会			社 会——共 産			自 民——社 会			社 会——共 産		
			大	小	ナ シ	大	小	ナ シ	大	小	ナ シ	大	小	ナ シ
20 代	仙 台	'76	63.0	25.9	11.1	63.0	31.5	5.6	58.2	28.1	10.3	50.7	33.6	11.0
		'79	54.7	30.7	13.3	40.0	41.3	17.3	54.5	33.6	11.2	43.4	42.0	13.3
		'80	61.1	31.9	5.6	62.5	23.6	12.5	53.0	32.8	13.4	56.0	34.3	9.0
		'83	59.8	27.2	12.0	52.2	37.0	10.9	52.7	29.3	16.6	49.3	36.6	12.7
	福 島	'76	57.4	31.1	11.5	34.4	54.1	11.5	51.7	36.0	10.1	38.2	49.4	10.1
		'79	57.7	30.8	7.7	36.5	34.6	25.0	46.5	30.7	18.8	30.7	44.6	20.8
		'80	48.3	33.3	15.0	46.7	43.3	6.7	51.2	33.8	15.0	55.0	33.8	11.2
		'83	71.4	21.4	7.1	57.1	35.7	7.1	61.7	25.0	11.7	48.3	35.0	15.0
40 代 以 上	仙 台	'76	76.9	19.2	0	38.5	50.0	7.7	74.2	18.9	5.3	37.1	45.5	15.2
		'79	62.0	24.0	14.0	24.0	60.0	16.0	71.2	17.0	9.8	41.2	37.3	19.6
		'80	67.4	28.3	4.3	58.7	37.0	4.3	73.8	18.8	7.5	42.5	37.5	18.1
		'83	72.5	23.5	3.9	43.1	47.1	9.8	73.5	17.5	7.0	41.5	42.0	14.5
	福 島	'76	72.2	25.0	0	33.3	47.2	16.7	68.7	22.6	7.0	35.7	40.0	21.7
		'79	57.5	32.5	7.5	37.5	45.0	12.5	71.1	17.2	7.8	32.0	38.3	25.8
		'80	58.3	27.8	13.9	30.6	50.0	19.4	72.4	11.4	10.5	41.0	36.2	14.3
		'83	65.1	30.2	4.7	48.8	48.8	2.3	62.7	24.5	12.7	43.6	40.0	15.5

政党観について顕著な点は、それを形造る判断枠組が多次元化し、かつ「非一貫化」している点である（表5—6）。「政策」「人材」「清潔さ」「民主的」の四項目にわたるへ政党イメージをみると、各政党支持者が自分の支持する政党をすべての項目にわたって「一番よい」としているわけではない。「政策」が一番よいとされる率は、支持率とかなり対応しているが、労働組合員の間で支持率の最も高い「社会党」についていえば、それら四項目のいずれについても「一番よい」とされる率は「支持率」を下

表5—6 政党イメージ

				政 策		人 材		清 潔 さ		民 主 的	
				男	女	男	女	男	女	男	女
岩手	民 間	自 民 党 社 会 明 社 産 共	70.8	64.9	80.8	59.5	18.3	18.0	35.0	27.0	
			65.1	54.9	16.5	9.9	35.2	28.5	41.3	28.4	
			70.0	66.7	43.3	22.2	76.7	66.7	63.3	38.9	
			65.7	63.6	7.1	0	37.9	18.2	52.9	18.2	
			72.7	67.9	33.3	32.1	77.3	67.9	48.5	53.6	
	官 公 労	自 民 党 社 会 明 社 産 共	71.1	55.6	85.9	68.5	20.4	7.4	35.2	29.6	
			71.4	59.0	21.7	15.8	38.3	31.4	53.4	35.3	
			59.3	53.8	25.9	46.2	48.1	61.5	51.9	53.8	
			63.4	55.6	9.9	5.6	26.8	22.2	47.9	38.9	
			84.0	77.3	58.0	54.7	89.3	82.7	75.2	73.3	
宮 城	民 間	自 民 党 社 会 明 社 産 共	72.7	54.3	79.4	59.0	23.4	14.3	40.7	28.6	
			60.5	56.8	12.2	9.0	27.7	28.1	38.4	27.7	
			55.4	42.9	39.8	28.6	49.4	52.4	45.8	38.1	
			53.8	28.6	11.8	14.3	28.0	28.6	37.6	14.3	
			70.0	62.4	44.3	41.9	77.2	74.2	55.7	50.5	
	官 公 労	自 民 党 社 会 明 社 産 共	64.9	25.0	83.8	75.0	18.9	0	32.4	25.0	
			76.5	52.6	25.0	18.4	37.8	30.3	59.4	46.1	
			45.5	0	27.3	0	45.5	0	54.5	0	
			38.9	50.0	0	0	5.6	0	33.3	50.0	
			89.4	100.0	68.3	88.9	92.7	100.0	76.4	88.9	

(各政党支持者が各4項目に関して支持する政党をあげた比率)

回っており、特に「人材」に関してそのギャップが大きく、「人材」の点で「自民党」をあげる率は、全体でほぼ「社会党」支持率に相当している。

六 国の政治

労働組合員の政治に対する関心のもち方を、〈各級選挙に対する関心度〉(表6-1)によって、一般有権者と対比すると、概して、組合員の場合には、非組合員に比して、「国政選挙」への関心がより高く、「地方議員選挙」への関心が相対的に低い。個々の選挙によって関心度に差があり、それは組合による「動員」と関連しているようにみえる。

同様、70年代後半以降の総選挙における〈重要な争点〉(表6-2)の認識においても、野党側によって強くキャンペーンされた「汚職問題」や「政治変革」を〈重要〉とする比率は、非組合員に比して、労働組合員にいく分多くみられるが、問題を「より実利的性格の強い争点」と「よりイデオロギー的色彩の強い争点」に二分してみると、組合員、非組合員の間の差は大きくはなく、両者いずれについても、前者が後者を大きく上回っている。

〈国に対する要望〉一般としてみると、表示はしていないが、回答は「物価対策」や「福祉」に集中し、この場合には、〈重要な争点〉におけるような時宜の変化は少なく、また、労働組合員と非組合員との間の差も少ないのである。労働組合員を対象とした調査結果(表6-3)でも、性別、官民の別を問わず、「福祉・医療」及び「景気・雇用」に集中している。

それら二種類の質問に対する回答結果をつき合わせると、選挙における争点はその時々変りうるが、行政需要の内味は変らない。また、選挙の争点に関しては、労働組合員・非組合員の間に差異はあるが、行政需要に関しては両者間の

表 6—1 選 挙 関 心

			男 性								女 性							
			男 性				性 別				女 性				性 別			
			労働組合員				非組合員				労働組合員				非組合員			
			市 議 会	市 長	県 政	国 政	市 議 会	市 長	県 政	国 政	市 議 会	市 長	県 政	国 政	市 議 会	市 長	県 政	国 政
20 代	仙 台	'79	22.7	26.7	13.3	37.3	29.4	23.8	15.4	30.1	27.5	40.0	5.0	22.5	31.0	33.0	13.1	21.2
		'80	31.9	31.9	8.4	26.4	23.1	25.4	9.7	38.1	16.7	46.7	6.7	30.0	26.9	30.9	17.8	18.9
		'83	18.5	26.1	11.9	42.4	23.4	22.9	16.1	34.7	23.1	38.5	2.6	33.3	28.3	31.9	13.3	21.3
	福 島	'79	26.9	19.2	25.0	28.8	36.6	21.8	17.8	19.8	45.8	29.2	8.4	12.5	44.2	24.6	13.7	13.7
		'80	23.3	25.0	18.4	30.0	33.8	13.8	20.0	28.7	24.1	24.1	34.4	13.8	46.5	17.6	17.0	15.1
		'83	32.1	17.9	3.6	46.4	30.0	20.0	20.0	30.0	42.9	28.6	21.4	14.2	30.4	20.7	29.4	16.3
40 代 以 上	仙 台	'79	36.0	26.0	2.0	36.0	32.0	25.5	7.8	35.0	38.5	15.4	23.1	15.4	34.6	29.8	10.1	19.8
		'80	26.1	23.9	10.9	34.8	28.1	17.5	11.9	41.8	16.7	33.3	0	50.0	33.6	31.5	10.5	19.3
		'83	17.6	19.6	11.7	49.0	33.0	15.5	6.0	43.0	39.1	17.4	8.6	21.7	37.8	23.6	9.1	27.7
	福 島	'79	40.0	10.0	7.5	42.5	51.6	16.4	7.0	21.1	44.4	27.8	16.7	11.2	54.1	13.5	15.3	13.0
		'80	33.3	11.1	11.1	44.4	46.7	15.2	9.6	24.8	23.1	15.4	15.4	38.5	38.9	19.8	17.6	14.5
		'83	27.9	14.0	14.0	41.9	50.0	16.4	9.1	23.6	35.3	23.5	23.5	17.6	43.7	13.2	16.5	23.8

表 6-2 各総選挙における最も重要な政策問題 (男性のみ)

			労働組合員									非組合員								
			景 気	物 価	税	福 祉	エ ネ ル ギ ー	行 革	汚 職	変 革	外 交	景 気	物 価	税	福 祉	エ ネ ル ギ ー	行 革	汚 職	変 革	外 交
20代	仙 台	'76	16.7	31.5	5.6	0	—	—	25.9	3.8	0	26.7	19.9	4.8	7.5	—	—	11.0	14.4	0
		'79	9.3	13.3	40.0	4.0	9.3	2.7	8.0	1.3	2.7	7.0	14.7	34.3	3.5	16.1	4.9	4.9	5.6	0.7
		'80	13.9	27.8	4.2	2.8	6.9	5.6	6.9	15.3	11.1	14.9	24.6	5.2	2.2	8.2	2.2	4.5	21.6	8.2
		'83	17.4	9.8	14.1	6.5	1.1	10.9	20.7	9.8	4.3	21.0	10.7	14.1	2.9	0	6.3	18.5	8.3	7.3
30代	福 島	'76	23.0	23.0	0	4.9	—	—	19.7	9.9	1.6	23.6	16.9	1.1	2.2	—	—	21.3	10.1	0
		'79	13.5	23.1	21.2	7.7	15.4	3.8	5.8	3.8	0	12.9	24.8	22.8	5.0	10.9	4.0	5.0	3.0	0
		'80	21.7	26.7	3.3	3.3	3.3	1.7	6.7	15.0	6.7	13.8	25.0	1.2	6.2	15.0	5.0	10.0	7.5	8.8
		'83	21.4	3.6	21.4	0	0	14.3	21.4	0	7.1	21.7	8.3	8.3	6.7	3.3	13.3	16.7	5.0	6.7
40代以上	仙 台	'76	34.6	15.4	7.7	3.8	—	—	15.4	11.5	3.8	34.1	26.5	4.5	6.8	—	—	8.3	5.3	0
		'79	14.0	28.0	30.0	2.0	4.0	4.0	10.0	0.7	0	17.0	26.8	16.3	9.8	9.2	6.5	5.9	0.5	0.7
		'80	10.7	34.8	2.2	2.2	4.3	4.3	8.7	17.3	10.9	16.9	33.1	3.8	6.9	7.5	3.1	8.8	6.2	10.6
		'83	37.3	5.9	3.9	3.9	0	11.8	17.6	7.8	0	28.0	10.0	6.5	11.5	0	13.0	11.0	4.5	2.5
	福 島	'76	33.3	13.9	5.6	11.1	—	—	13.9	5.6	2.8	32.2	17.4	1.7	10.4	—	—	3.5	1.7	0
		'79	17.5	12.5	32.5	2.5	12.5	2.5	2.5	7.5	5.0	17.2	17.2	18.8	8.6	7.0	3.9	1.6	0	2.3
		'80	11.1	44.4	5.6	2.8	0	5.6	13.9	8.4	5.6	15.2	24.8	1.0	13.3	4.8	7.6	9.5	5.8	4.8
		'83	18.6	11.6	11.6	7.0	2.3	7.0	27.9	2.3	2.3	30.0	5.5	5.5	13.6	0	8.2	17.3	2.7	4.5

表 6-3 国 に対する 要望

			教 育	文 化	福祉・医療	道路 交通	流通 機構	環境・公害	景気・雇用	地域 開発	無 回 答
岩 手 宮 城	民 間	男	5.3	1.4	32.5	8.1	2.7	3.4	38.2	3.8	4.8
		女	6.1	0.6	43.4	3.1	1.8	5.3	24.7	3.0	12.0
		計	5.5	1.2	35.0	7.0	2.5	3.8	35.0	3.6	6.5
	官公労	男	7.2	2.0	38.2	3.7	2.1	5.4	33.2	5.0	3.2
		女	10.4	1.9	42.2	3.3	1.3	6.5	21.8	3.2	9.4
		計	8.0	1.9	39.2	3.6	1.9	5.7	30.3	4.5	4.8
	民 間	男	5.6	9.9	33.3	0.7	1.8	6.6	34.6	2.8	4.8
		女	5.8	5.5	40.3	0.5	1.2	5.1	21.8	2.5	17.4
		計	5.6	8.9	35.0	0.6	1.6	6.2	31.5	2.7	7.9
	官公労	男	3.9	6.3	36.5	0.4	1.9	9.2	36.0	3.2	2.6
		女	6.4	7.3	41.1	0.0	1.4	15.1	15.5	1.4	11.9
		計	4.2	6.4	37.1	0.3	1.8	9.9	33.6	3.0	3.7

差が少ないという事実は、「選挙」をどのようにみているかの点とも関連する。労働調査協議会の全国調査によると、〈選挙で自分の意見を反映できない〉とするものの比率は、官民総計で78年の74・1%から82年の80・0%に増加していたのである。

70年代後半以降の各種世論調査における一つの奇妙な現象は、生活に対する「満足」意識の上昇と政治に対する「不満」意識の同時上昇にあったが、労働調査協議会の82年調査結果においても、労働組合員の約八割がへいままでの自民党政権下の政治〉に対して「不満」と回答している。

それでは、〈長く保守政権が続く原因〉(表6-4)についてどのようにみられているであろうか。その理由を、「自民側」「野党側」「世論」に三分すると、一般有権者を対象とした調査結果では、概略的にいえば、性別差があつて、女性の場合には、「自民側」を理由とする比率が最も高く、男性の場合には、福島県の40代以上を例外として、「野党側」を理由とする比率が最も高いという傾向がみられるが、男性の場合について、労働組合員と非組合員を比較する

表 6-4 長期保守政権の理由

			男 性						女 性					
			労働組合員			非組合員			労働組合員			非組合員		
			自民	野党	世論	自民	野党	世論	自民	野党	世論	自民	野党	世論
20 と 30 代	仙 台	'76	33.4	38.9	25.9	19.8	44.5	32.9	37.5	24.4	18.7	33.3	28.4	20.7
		'79	23.9	41.3	34.6	29.4	35.7	32.9	50.0	25.0	22.5	43.4	30.3	22.6
		'80	34.8	43.0	20.8	29.8	32.8	34.4	30.0	33.3	33.3	44.3	29.5	21.1
		'83	36.9	44.6	13.1	32.2	34.7	31.2	56.5	18.0	17.9	36.7	36.3	20.8
	福 島	'76	36.0	31.2	27.9	27.0	43.8	24.7	23.0	34.6	38.5	42.3	26.2	23.5
		'79	24.9	50.0	19.2	30.8	34.7	27.7	41.6	29.2	20.8	42.0	26.8	21.7
		'80	36.6	36.6	21.7	27.5	31.3	38.7	20.7	41.3	24.1	39.0	28.3	22.0
		'83	35.7	42.9	21.4	43.3	30.0	26.6	64.3	14.3	21.4	55.4	18.5	19.6
40 代 以 上	仙 台	'76	42.3	42.3	15.4	35.6	45.5	16.7	42.1	52.6	5.3	38.4	37.9	16.7
		'79	34.0	46.0	20.0	26.9	54.3	17.7	15.4	53.9	30.8	40.0	41.2	12.3
		'80	32.6	34.8	30.4	35.1	37.5	25.0	41.6	16.7	33.3	43.7	33.6	16.0
		'83	41.3	43.1	11.8	35.5	50.5	13.0	60.8	17.4	8.7	44.9	33.5	15.5
	福 島	'76	33.4	38.9	25.0	33.9	48.7	14.7	40.0	20.0	30.0	34.6	32.1	14.7
		'79	50.0	16.7	22.3	43.6	25.9	13.0	35.0	42.5	30.0	16.4	26.8	32.1
		'80	41.7	19.4	36.1	50.4	28.6	15.2	15.4	38.5	38.5	39.7	25.2	16.0
		'83	53.5	18.7	23.3	54.5	30.9	11.8	47.1	35.3	11.8	51.3	28.5	10.6

表 6—5 長期保守政権の原因

			政策 がよい	権力 利用	首相 交代	野党 の実行 力如	野党 がな 協力的	国民 がま 変化 ず	生活 水準 向上	保守 信頼	無 回 答
岩	民間	男	3.0	16.3	1.5	35.7	18.8	12.2	3.1	2.4	6.9
		女	2.6	18.6	1.8	21.3	12.7	12.1	3.9	3.3	23.8
		計	2.9	16.8	1.6	32.4	17.5	12.1	3.3	2.6	10.9
手	官公労	男	0.9	19.3	1.1	32.7	23.3	16.1	2.4	0.8	3.4
		女	0.6	23.4	0.6	26.5	12.5	18.0	2.5	2.2	13.7
		計	0.9	20.4	1.0	31.1	20.6	16.5	2.4	1.1	6.1
宮	民間	男	3.3	14.8	2.2	37.6	17.9	12.1	3.4	2.4	6.3
		女	2.7	20.4	2.1	18.4	10.0	10.0	4.3	3.3	28.8
		計	3.1	16.2	2.2	33.0	16.0	11.6	3.6	2.6	11.7
城	官公労	男	0.9	16.7	1.8	38.7	22.1	14.4	2.2	0.9	2.3
		女	0.5	19.6	0.9	31.5	11.9	16.4	2.7	1.8	14.6
		計	0.9	17.1	1.7	37.8	20.9	14.6	2.3	1.0	3.7

表 6—6 日本の政治のあり方

			指 導 力	思 い や り	不正 汚職	福祉・ 教育	話し 合い	効率 よい	思想・ 道義 追求	干渉 しない	無 回 答
岩	民間	男	13.1	16.9	38.8	8.4	5.5	6.3	3.3	1.3	6.9
		女	8.1	14.1	44.2	5.8	5.4	3.5	1.8	1.0	16.3
		計	12.0	16.3	39.8	7.8	5.5	5.7	3.0	1.1	8.8
手	官公労	男	6.5	16.4	39.7	13.7	4.9	5.7	8.5	0.8	3.7
		女	6.4	11.6	47.7	10.0	3.5	3.6	5.2	0.4	11.6
		計	6.5	15.2	41.7	12.7	4.5	5.2	7.6	0.7	5.8
宮	民間	男	13.9	17.1	34.8	10.5	5.3	5.8	4.7	2.0	5.8
		女	6.6	13.8	39.1	5.6	5.1	3.3	2.7	1.2	22.8
		計	12.1	16.3	35.8	9.3	5.3	5.2	4.2	1.8	9.9
城	官公労	男	8.4	17.3	39.2	13.0	5.9	5.6	7.2	0.6	2.8
		女	6.4	15.5	45.7	6.4	1.8	3.2	6.4	0.5	14.2
		計	8.2	17.1	39.9	12.2	5.4	5.3	7.1	0.6	4.1

表 6—7 今後に期待する政權

			男				性				女				性			
			労働組合員				非組合員				労働組合員				非組合員			
			自単 民独	保連 守合	保連 革合	革連 新合	自単 民独	保連 守合	保連 革合	革連 新合	自単 民独	保連 守合	保連 革合	革連 新合	自単 民独	保連 守合	保連 革合	革連 新合
20 代	仙 台	'76	1.9	13.0	57.4	27.9	6.2	28.8	41.8	17.8	3.1	18.8	56.2	9.4	6.1	26.3	46.5	9.5
		'79	5.3	8.0	45.3	40.0	12.6	8.4	49.0	23.1	7.5	5.0	62.5	17.5	8.8	11.4	55.6	17.1
		'80	19.4	18.1	37.5	20.9	21.6	12.7	36.6	23.1	23.3	13.3	43.3	10.0	12.7	15.6	44.4	13.5
		'83	18.5	7.6	44.6	22.8	24.9	13.2	40.5	15.2	7.7	15.4	46.2	15.4	9.3	17.3	45.6	14.6
	福 島	'76	3.3	4.9	57.4	29.5	6.7	25.8	33.7	30.3	3.8	15.4	65.4	15.3	9.4	24.8	46.3	10.0
		'79	1.9	11.5	53.8	26.8	13.9	12.9	46.5	18.9	4.2	16.7	50.0	20.8	6.5	14.5	55.8	9.3
		'80	18.3	10.0	35.0	30.1	27.5	16.2	35.0	16.2	20.7	17.2	31.0	13.6	14.5	19.5	41.5	13.1
		'83	25.0	10.7	25.0	35.8	26.7	13.3	36.7	20.0	7.1	14.3	78.6	0	20.7	19.6	37.0	15.3
40 代	仙 台	'76	11.5	23.1	38.5	26.9	12.9	35.6	34.1	15.9	5.3	36.8	47.4	10.6	15.4	33.9	32.6	10.0
		'79	10.0	2.0	46.0	42.0	23.5	9.2	49.7	15.1	7.7	7.7	46.2	23.1	15.8	13.2	46.5	14.9
		'80	28.3	4.3	30.4	30.5	40.6	18.8	29.4	8.0	25.0	8.3	33.3	16.7	28.2	20.6	26.9	12.2
		'83	13.7	9.8	35.3	31.3	29.0	19.0	28.5	19.0	17.4	8.7	34.8	17.2	16.9	17.6	35.5	15.6
	福 島	'76	2.8	19.4	52.8	22.3	14.8	28.7	44.3	7.8	0	10.0	50.0	35.0	17.9	23.5	27.8	11.1
		'79	7.5	7.5	40.0	40.0	25.8	14.8	40.6	12.5	16.7	16.7	44.4	16.7	14.7	22.4	29.4	14.1
		'80	16.7	19.4	36.1	25.0	32.4	23.8	30.5	7.7	23.1	30.8	15.4	23.1	33.6	22.9	19.1	9.2
		'83	18.6	11.6	30.2	37.2	23.6	25.5	33.6	13.5	0	29.4	29.4	35.3	19.2	25.2	27.2	12.6

と、さらに年齢層によって差異があり、20代・30代については、「野党側」を理由とする比率は組合員に、「世論」を理由とする比率は非組合員により多く、40代以上については、それと逆のパターンが見出される。

同じ質問に対する労働組合員の調査結果(表6-5)をみると、性別、官民別を問わず、「野党側」を理由とする比率が最も多く、男性の場合は半数以上を占める。また、「野党側」を理由とする場合の内訳においても、官民を問わず、「野党の実行力の欠如」が「野党相互の非協力」を大きく上回っている。

これまでの調査結果をみると、政治の現状に対する労働組合員の「閉塞感」を推測せざるをえないが、労働調査協議会の全国調査は、その点について端的な結果を報告している。78年、82年の二回の調査を通じて、「変革を期待している」とする比率は約七割を占めているが、他方、「大きな変革はないだろう」とする「諦観」が約八割を占めているのである。

〈政治のあり方〉(表6-6)に関しては、「清潔さ」が際立って多くあげられるが、それを除いて、回答を最近流行の「ドライ」「ウェット」で二分すると、官民を問わず後者の政治志向が上回っている点、また、〈今後に期待する政権〉(表6-7)に関して、80年代に入って特に20代・30代の若年層において「自民単独政権」の比率に増加はあっても、なお、「保革連合」への期待が最も多くの割合を占めている点は、最近の「保守化」をめぐる議論の文脈においてより、むしろ、先きにみた「閉塞感」や一種の「疎外感」の文脈において解釈できるように思われる。

七 地域政治

〈自治体に対する要望〉(表7-1)は、〈国に対する要望〉に比べ、分散する傾向にあるが、そこには官民差だけで

なく、地域差もみられる。同様、〈住んでいるまちの今後の開発方向〉(表7-2、7-3)に關しても、官民差にならないで、地域差がみられる。さらに、より広域的な東北地方全体について、〈くらしや経済の将来像〉(表7-4、7-5)を問うた質問に対する回答においても、有権者対象の調査結果では、労働組合員と非組合員との間の差異と同程度に地域差がみられ、組合員対象の調査結果でも、官民差と同程度に地域差がみられる。

このように、地域政策の内容に關しては、各地域の条件を反映する地域差が現われるが、政治様式に關しては、地域差はそれほど顯著ではない。

〈市町村政に對して不満や要望が起ったときの要望媒体〉(表7-6)に關しては、性別、官民別を問わず、「市役所、町村役場」及び「町内会」の行政窓口が中心となっている。官民別からみると、民間では「地元有力者」や「議員」をより多くあげ、官公労では「勤め先き」や「組合」をより多くあげる点に差異がある。しかし「組合」を窓口とする比率は、岩手の官公労男性を例外として、「勤め先

表7-1 自治体に対する要望

			教 育	文 化	福 祉・医 療	道 路 交 通	流 通 機 構	環 境・公 害	景 気・雇 用	地 域 開 発	無 回 答
岩 手	民 間	男	3.4	3.4	15.3	14.8	4.4	12.3	13.1	24.4	7.0
		女	3.9	2.6	15.2	8.7	2.6	13.5	16.7	20.5	16.4
		計	3.5	3.2	15.2	13.3	4.0	12.6	14.1	24.9	9.3
	官公労	男	7.2	7.7	18.2	12.4	3.8	14.7	7.6	24.1	4.4
		女	6.9	8.8	17.7	7.3	2.5	13.9	11.3	19.2	12.4
		計	7.1	8.0	18.1	11.0	3.5	14.5	8.5	22.8	6.3
宮 城	民 間	男	5.1	22.8	17.6	0.8	3.1	18.2	9.9	16.3	6.2
		女	3.6	15.6	16.3	0.3	1.8	13.2	13.9	13.0	22.4
		計	4.8	21.0	17.3	0.7	2.8	17.0	10.8	15.5	10.1
	官公労	男	3.9	28.8	18.8	1.0	2.3	22.4	4.9	14.3	3.5
		女	5.0	28.8	13.7	0.5	1.8	23.7	3.7	9.6	13.2
		計	4.0	28.8	18.2	1.0	2.3	22.5	4.7	13.8	4.7

表 7-2 住んでいるまちで今後の開発促進すべきもの

			工業 開発	商業 開発	農・漁業 開発	住宅団地 開発	観光 開発	市街地再 開発	生活基盤 整備	環境 整備	無 回 答
岩	民間	男	30.1	4.9	6.4	3.9	11.5	6.8	18.2	12.6	5.7
		女	23.6	5.7	4.8	2.8	6.3	6.5	18.3	17.8	14.2
		計	28.8	5.0	6.0	3.6	10.3	6.7	18.2	13.6	7.8
手	官公労	男	12.1	5.2	11.4	3.3	9.1	6.8	27.8	20.3	3.9
		女	10.6	7.2	10.5	1.6	7.5	4.2	25.4	22.0	11.0
		計	11.8	5.7	11.2	2.8	8.7	6.1	27.2	20.7	5.7
宮	民間	男	16.3	5.2	7.7	7.5	5.6	6.9	20.3	24.6	5.8
		女	14.1	5.7	6.7	3.3	3.2	3.9	17.0	23.1	23.0
		計	15.8	5.3	7.4	6.5	5.1	6.2	19.5	24.3	10.0
城	官公労	男	4.3	4.3	7.0	5.6	3.5	9.1	29.0	33.9	3.3
		女	0.9	2.7	4.6	4.6	1.8	4.6	28.8	38.4	13.7
		計	3.9	4.1	6.7	5.5	3.3	8.6	28.9	34.4	4.6

表 7-3 住んでいるまちで開発をひかえた方がよいもの

			工業 開発	商業 開発	農・漁業 開発	住宅団地 開発	観光 開発	市街地再 開発	生活基盤 整備	環境 整備	無 回 答
岩	民間	男	19.3	4.2	4.2	12.4	12.6	15.9	2.6	2.4	26.3
		女	13.3	3.7	2.7	11.9	10.7	10.9	2.0	2.3	42.5
		計	17.9	4.1	3.8	12.3	12.1	14.8	2.5	2.4	30.1
手	官公労	男	36.2	3.3	3.2	8.3	12.8	12.5	1.4	1.0	21.3
		女	22.0	3.0	2.0	9.9	12.9	9.6	1.1	1.3	38.2
		計	32.4	3.2	2.9	8.7	12.8	11.8	1.3	1.0	25.8
宮	民間	男	32.1	3.4	2.7	11.6	14.2	13.0	2.4	2.5	18.3
		女	19.6	2.5	1.3	10.3	13.0	7.9	2.9	1.8	40.7
		計	29.0	3.2	2.4	11.3	13.9	11.8	2.5	2.2	23.7
城	官公労	男	50.2	2.9	1.5	9.7	10.5	9.1	1.0	1.0	14.1
		女	22.8	8.2	1.8	16.0	11.0	11.4	0.0	0.0	28.8
		計	46.9	3.5	1.6	10.4	10.5	9.4	0.9	0.9	15.9

表 7-4 くらしの将来像

			男 性								女 性							
			労働組合員				非組合員				労働組合員				非組合員			
			農開 業中 心制	産業 開発	福祉 文化	住宅 環境	農開 業中 心制	産業 開発	福祉 文化	住宅 環境	農開 業中 心制	産業 開発	福祉 文化	住宅 環境	農開 業中 心制	産業 開発	福祉 文化	住宅 環境
20 〜 30 代	仙 台	'79	20.0	21.3	33.3	25.3	7.7	30.1	34.3	23.8	10.0	17.5	32.5	27.5	10.8	25.2	40.4	18.9
		'80	18.1	20.8	34.7	22.2	14.2	30.6	29.9	22.4	13.3	30.0	30.0	23.3	11.6	24.4	39.3	21.1
		'83	13.0	33.7	31.5	19.6	16.1	39.5	26.3	13.7	25.6	33.3	28.2	10.3	11.1	29.7	35.0	17.3
	福 島	'79	21.2	28.9	28.9	19.2	18.8	28.7	32.7	15.8	16.7	41.7	29.2	12.5	17.4	23.9	36.2	15.9
		'80	16.7	30.0	35.0	11.7	25.0	26.3	31.2	12.5	6.9	27.5	44.8	13.8	16.4	26.4	31.4	17.6
		'83	10.7	42.9	32.1	10.7	13.3	53.4	16.7	16.7	35.7	14.3	42.9	7.1	10.9	40.2	38.0	9.8
40 代 以 上	仙 台	'79	12.0	42.0	30.0	16.0	10.5	46.4	20.3	17.6	7.7	53.9	7.7	23.1	8.3	34.2	30.3	14.9
		'80	8.7	39.1	37.0	8.7	13.8	56.8	16.9	11.2	16.7	33.3	41.7	8.3	12.6	37.4	30.3	11.8
		'83	9.8	45.1	25.5	15.7	14.5	44.5	23.0	14.5	8.7	39.3	21.7	17.4	15.5	41.5	26.4	9.5
	福 島	'79	10.0	40.0	35.0	10.0	25.8	41.4	18.8	5.5	5.6	55.5	5.6	27.8	21.8	25.9	25.3	11.8
		'80	16.7	44.4	30.6	8.3	27.6	43.8	19.0	3.8	53.8	23.1	23.1	0	16.0	41.3	26.1	5.3
		'83	14.0	44.2	34.9	7.0	25.5	49.1	16.4	8.2	29.4	35.3	35.3	0	25.8	45.0	15.9	6.6

表 7-5 東北地方全体について、くらしや経済の将来像

			農開 業発 中抑 心制	工育 業の 誘致 成	第商 二業 次活 業動	福充 祉・文 化の 実	住生 宅関 連建 設資	無 回 答
岩	民 間	男	14.6	41.0	18.2	12.2	6.8	7.2
		女	13.5	33.1	14.5	15.4	3.5	19.9
		計	14.2	39.3	17.3	12.8	6.1	10.2
手	官 公 労	男	21.3	23.2	17.1	26.6	7.2	4.6
		女	20.3	20.5	16.0	23.3	4.2	15.6
		計	21.1	22.6	16.7	25.7	6.4	7.5
宮	民 間	男	17.4	25.2	15.5	22.5	12.1	7.3
		女	16.8	17.2	12.1	20.6	5.7	27.7
		計	17.3	23.2	14.7	22.0	10.5	12.2
城	官 公 労	男	24.2	12.7	12.3	36.2	10.6	4.1
		女	23.7	8.2	8.2	35.6	5.5	18.7
		計	24.2	12.1	11.8	36.1	10.0	5.8

表 7-6 市町村に対し、不満や要望の解決方法

			市 町 村 長	市町 村役 所場	陳 情・ 請願	地 元有 力者	議 員	町 内会 部 落 会	組 合	勤 め 先	無 回 答
岩	民 間	男	2.7	19.0	11.5	8.5	20.1	16.4	6.2	7.0	8.5
		女	2.4	20.2	6.7	10.4	9.8	15.2	6.5	11.4	17.3
		計	2.7	19.2	10.3	9.0	17.8	16.1	6.3	7.9	10.7
手	官公労	男	1.8	22.6	12.8	3.7	13.5	13.0	13.0	12.2	7.4
		女	0.9	20.0	10.3	2.9	6.7	11.6	12.8	19.8	15.0
		計	1.6	21.9	12.2	3.5	11.7	12.6	12.9	14.1	9.4
宮	民 間	男	4.0	22.8	8.1	8.6	15.1	18.7	5.6	7.4	9.6
		女	3.9	18.0	4.7	9.3	10.1	16.8	6.3	8.4	22.5
		計	4.0	21.6	7.3	8.8	13.9	18.3	5.8	7.6	12.7
城	官公労	男	2.6	25.0	10.6	3.6	12.6	15.6	9.3	13.4	7.3
		女	1.4	27.4	9.6	1.4	3.2	12.3	4.6	18.3	21.9
		計	2.4	25.3	10.5	3.4	11.5	15.2	8.8	14.0	9.0

表 7-7 まちの地域活動への参加

			公民館活動	地域スポーツ	ボランティア	同好会	青少年婦人会	老人会活動	部落・町内会	不参加	無回答
岩手	民間	男	5.9	20.9	0.9	5.7	2.4	0.6	31.0	26.9	5.7
		女	5.5	12.5	0.7	3.6	8.3	0.5	23.5	34.2	11.1
		計	5.8	19.0	0.9	5.3	3.7	0.6	29.2	28.5	7.1
	官公労	男	5.5	22.3	1.1	8.2	3.8	0.2	28.2	27.6	3.3
		女	5.3	10.2	1.1	6.3	5.9	0.1	23.4	39.2	8.2
		計	5.4	19.2	1.1	7.7	4.3	0.2	27.1	30.5	4.6
宮城	民間	男	3.6	19.0	1.3	5.0	2.8	0.9	25.0	37.0	5.4
		女	2.5	7.7	0.5	3.2	7.3	1.7	24.8	34.6	17.8
		計	3.3	16.3	1.1	4.6	3.8	1.1	25.0	36.4	8.4
	官公労	男	2.5	16.9	1.3	6.3	2.8	0.3	22.9	44.0	3.0
		女	3.2	5.9	0.9	4.6	1.8	0.5	18.3	53.0	11.9
		計	2.5	15.6	1.2	6.1	2.7	0.3	22.4	45.1	4.1

表 7-8 労働組合の地域活動

			重視	地域の発展	地方議会に表	シンポジウム	住民組織と関	地域スポーツ	地域福祉	副次的	無回答
岩手	民間	男	26.9	17.0	15.7	3.5	9.0	4.1	1.7	14.2	8.0
		女	23.5	15.0	10.6	2.5	6.1	3.4	3.9	12.9	22.2
		計	26.1	16.5	14.5	3.2	8.3	3.9	2.2	13.9	11.3
	官公労	男	40.8	13.4	11.6	4.2	11.6	3.5	1.9	8.3	4.7
		女	32.0	15.0	12.2	3.0	7.3	2.4	3.0	8.9	16.2
		計	38.4	13.9	11.8	3.9	10.5	3.2	2.2	8.4	7.7
宮城	民間	男	23.6	17.9	13.4	3.8	8.5	4.6	3.4	17.2	7.5
		女	21.6	12.8	10.1	2.7	5.9	2.7	4.0	12.5	27.6
		計	23.2	16.7	12.6	3.5	7.9	4.1	3.6	16.1	12.4
	官公労	男	39.4	13.4	10.9	3.3	10.1	3.4	3.1	12.7	3.6
		女	30.6	12.3	8.7	1.8	5.9	1.4	5.0	13.2	21.0
		計	38.4	13.3	10.7	3.1	9.6	3.2	3.3	12.8	5.6

き」を窓口とする比率を下回っている。

労働組合員個人について、〈地域活動への参加〉(表7-7)率をみると、地域差があり、宮城では約半数、岩手では三分の二となるが、そのいずれの比率も一般有権者の平均に比べると低いといえる。地域活動の内容を「半官的な活動」と「自発的活動」に二分してみると、後者の割合が、官民を問わず、宮城の場合で約四分の一、岩手の場合で約三分の一となるが、具体的内容では「地域スポーツ」への参加比率が高い。一方、労働組合員の行政に対する要望内容では、「福祉・医療」の比重が最も大きくみられたが、地域活動で「ボランティア活動」へ参加している比率は、性別、官民別を問わず、わずか1%にすぎない。

右の二つの質問に対する回答結果からみると、労働組合も、また労働組合員個人も、地域活動に対する関わりは、現状ではなお稀薄のようにみえるが、〈労働組合の地域活動〉(表7-8)に関してどのように考えているであろうか。ここで、考え方を、「組合の枠内にとどまる場合」と「より積極的に地域生活に関与する場合」とに概括二分すると、民間においては後者が前者を上回り、官公労では逆に前者が後者を上回っているが、両志向が官民を問わず相半ばしているといえよう。また、「より積極的に地域生活に関与すべき」とする考え方の場合でも、個々の項目別には、性別、官民別を問わず、「地域の発展に積極的に寄与すべきだ」の抽象論が最も多くの比率を占めている。

地域政治をめぐる、70年代には、開発の方向と中央―地方の関係に関する問題がイデオロギー的性格をもった争点を構成したが、70年代末以降、そういった地域政治をめぐる争点が稀薄になりつつある。しかし、その種の現象の進行には、クロスセクション別にタイム・ラグがあるようにみえる。〈中央―地方の関係〉(表7-9)に関して、有権者対象の調査結果をみると、男性の場合、非組合員については、「中央直結型」が年次を追って増加傾向にあるが、労働組合員についてはそういった傾向はみられず、また、労働組合員と非組合員との間の意見の差異について、40代以上の男

表 7—9 中央・地方の関係

			男 性						女 性					
			組 合 員			非 組 合 員			組 合 員			非 組 合 員		
			直 結	対回 立避	対 立	直 結	対回 立避	対 立	直 結	対回 立避	対 立	直 結	対回 立避	対 立
20 〜 30 代	仙 台	'79	22.7	26.7	48.0	21.0	42.0	34.3	32.5	32.5	27.5	38.7	32.3	24.6
		'80	27.8	41.7	30.6	26.9	37.3	33.6	30.0	43.3	20.0	32.7	39.3	25.1
		'83	29.3	31.5	38.0	28.8	38.0	30.2	23.1	48.7	25.6	29.6	37.6	26.1
	福 島	'79	28.8	26.9	38.5	32.7	33.7	29.7	29.2	41.7	25.0	34.1	33.3	29.7
		'80	25.0	38.3	35.0	20.0	41.2	37.5	44.8	17.2	34.5	34.6	37.7	21.4
		'83	28.6	42.9	28.6	31.7	48.3	20.0	57.1	25.6	14.3	37.0	35.9	26.1
	仙 台	'79	14.0	46.0	40.0	26.8	49.7	20.9	30.8	38.5	23.1	36.4	38.6	16.2
		'80	34.8	28.3	37.0	31.2	53.8	14.4	33.3	50.0	8.3	35.7	36.1	20.2
		'83	25.5	31.4	41.2	34.5	40.0	24.0	34.8	13.0	34.8	36.8	36.8	21.6
40 代 以 上	福 島	'79	22.5	32.5	40.0	35.2	34.4	25.0	16.7	44.4	22.2	32.4	27.1	21.2
		'80	50.0	13.9	36.1	37.1	27.6	30.5	53.8	15.4	23.1	30.5	27.5	22.9
		'83	25.6	32.6	41.9	44.5	34.5	19.1	17.6	29.4	52.9	42.4	27.8	22.5

表 7-10 中央（政府）と地方の関係

			中 央 直 結	対 立 は 避 け る	対 え も や む を い	無 回 答
岩 手 宮 城	民 間	男	31.1	20.5	40.2	8.2
		女	28.9	17.2	28.9	25.0
		計	30.6	19.7	37.6	12.2
	官 公 労	男	15.3	21.1	59.1	4.6
		女	20.1	21.9	38.9	19.1
		計	16.6	21.2	53.8	8.4
岩 手 宮 城	民 間	男	25.3	20.3	46.6	7.9
		女	22.7	15.5	31.1	30.7
		計	24.6	19.1	42.9	13.4
	官 公 労	男	12.7	18.8	64.1	4.4
		女	18.3	17.8	44.3	19.6
		計	13.4	18.6	61.7	6.2

表 7-11 「革新自治体」への評価

			一 定 の 役 割	保 変 守 り 系 な と し	大 期 待 し せ た ず	実 行 力 欠 け る	自 拡 大 の 意 識 割	保 悪 守 系 よ り い	産 立 業 ち 政 選 策 れ	無 回 答
岩 手 宮 城	民 間	男	16.2	6.4	9.5	42.2	4.6	6.0	6.2	9.0
		女	11.9	5.6	6.3	33.9	3.0	4.7	3.5	31.2
		計	15.2	6.2	8.8	40.2	4.3	5.7	5.6	14.1
	官公労	男	27.8	7.3	13.8	26.2	12.0	2.7	5.0	5.3
		女	21.4	5.9	8.8	29.3	7.6	2.6	3.9	20.6
		計	26.2	6.9	12.5	27.0	10.8	2.7	4.7	9.3
岩 手 宮 城	民 間	男	17.2	11.3	10.9	38.8	4.3	5.8	4.6	7.1
		女	9.7	6.0	7.1	30.9	3.5	2.9	7.9	32.0
		計	15.4	10.0	10.0	36.9	4.1	5.1	5.4	13.1
	官公労	男	31.1	12.7	11.6	25.2	9.8	3.0	2.8	3.9
		女	18.7	9.1	11.4	25.6	6.8	3.2	3.2	21.9
		計	29.6	12.2	11.6	25.3	9.4	3.0	2.8	6.0

性の場合には一定のパターンがみられるが、20代、30代の若年層の場合には、必ずしも一定のパターンがあるとはいえない。労働組合員を対象とした調査結果では（表7—10）、「地方独自の立場を貫くためには、政府との対立もやむえない」とする意見が、性別、官民別を問わず、最も多いが、その比率には官民間で大きなひらきがある。

労働組合員の〈革新自治体に対する評価〉（表7—11）をみると、労働調査協議会の78年調査では、消極評価が積極評価を上回り、かつ、消極評価の理由の大半は「実行力に欠ける」とするものであった。我々の調査結果でも、性別、官民別を問わず、消極評価が積極評価を大きく上回り——それらの比率には官民差はあるが——、かつ、消極評価の内訳でみると、「実行力に欠ける」とする評価がその理由の大半を占めていた。この質問に対する回答結果は、先の〈長期保守政権の理由〉に関する質問への回答と符号し、労働組合員の多くが、政治をイデオロギー的タームではなく、「指導性」や「実行力」のタームでみていることを示しているように思われる。

おわりに

本稿では、労働組合員の職場条件やそれに関する意識の面で、全国平均と地方との間の比較を行うことはできなかったが、地域差——ここでは岩手と宮城の間の比較——をみる場合、サンプル構成の差を考慮に入れておかねばならない。概略を記すと、年齢構成では、20代は宮城に、30代・40代は岩手に構成比率が高く、企業規模では、「30—300人」規模の比率が宮城に、「300人以上」の比率が岩手に比較的に大きく、さらに、業種別構成比では、運輸、新聞、食品の業種の比率が宮城に、建設、電気機械関係の比率が岩手に大きいといった偏りがある。しかし、労働市場の流動性や月収などの客観的条件に関してみられる差異、〈労使交渉〉や〈合理化の進め方〉など労使関係の面でみられる差異、労働組合

活動に関する評価においてみられる差異、これらは、必ずしもサンプル構成の差の反映ではなく、地域差としてみるこ
とができるものである。

労働組合員の属性別による差異をみると、年齢差は、生活意識の項目を除くと、どの項目でも意外と少ない。企業規
模別による差異は、ほとんどの項目でも少ない。業種別による差異は、特に労使関係に関するいくつかの項目におい
て大きくみられるが、女性の場合には、労働時間に関しても大きくみられる。ほぼ、いずれの項目においても差が大き
くみられるのは、官民間の差異であり、いくつかの例外を除くと、官民差のパターンは、宮城・岩手両地域に共通し
ている。

労働組合員の政治意識に関して、ここでの調査結果から顕著な点は、一つは、労働組合員と非組合員との間の差異に
関して、党派的态度や「ストライキ」など特定の項目についてはなお両者間に大きな差異がみられるが、他の項目に関
しては意識の差が意外と少なく、特に20代・30代の若年層にその点が明瞭であること、また、労働組合員内部につい
ても各属性別差異は比較的少なく、政党支持別による差異でさえ、党派選択に直接関連する項目を除くと、差異が少な
い点であった。

Conditions and Political Consciousness of Organized Workers

— Some results from a survey in Tōhoku region —

Shiro ABE*

Amongst the loudest arguments faced by the labour movement in today's Japan have been those crying over 'the crisis' or 'turning-point' of the movement in the circles of union leaders. The first set of arguments *tends straight-forwardly to concentrate on the union's disillusionment with the lack of impact upon wage bargaining of the "spring offensive"*, and another set of arguments concerns the internal state of unionisation or the goals to which the labour movement is addressed.

The purpose of this paper is not to examine closely each of these arguments but to present some findings concerning conditions and political consciousness of workers, on the basis of opinion poll type surveys which were conducted during the past few years, respondents to which were randomly sampled from members of unions affiliated with Iwate Ken Rōren and Miyagi Ken Rōren of the Sōhyo Federation. Although information concerning regional labour movement have been relatively ignored in previous studies, it seems essential as well as important for understanding of the complex reality and nature of Japanese industrial relations and labour movement because regional labour movement had been burdened with various kinds of heavy debt such as so-called 'the dual structure' of Japanese economy and gaps between central-local relations. We firstly look at briefly some characteristics in unionisation in Tōhoku region over the last decades, and then give particular attention to conditions and consciousness of workers in recent years.

* Associate Professor, Tōhoku University.